DENON
取扱説明書

AVC-1570

AV SURROUND AMPLIFIER

AV サラウンド アンプ

安全にお使いいただくために一必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

目　次

1 安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警 告

■安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

警告 つづき

■安全上お守りいただきたいこと

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 注 意

■安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■置き場所について

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠ 注 意 つづき

■取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

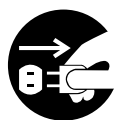
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

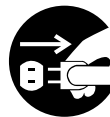
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

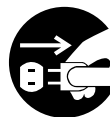
機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

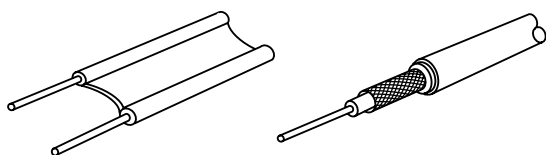
2 取り扱い上のご注意

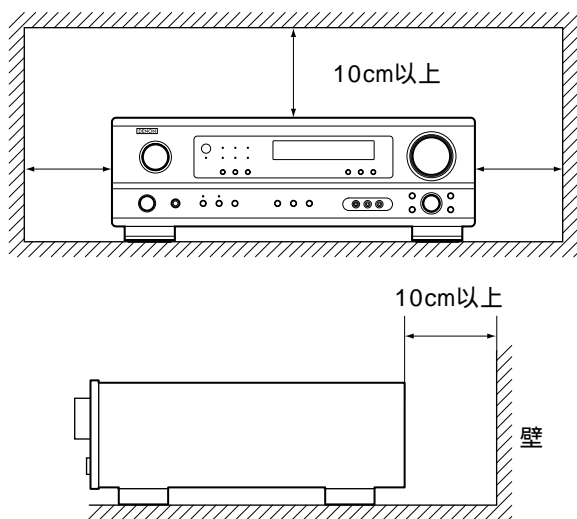
設置の際のご注意

■ 本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

◎ 本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

◎ チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。

◎ 特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

300Ωフィーダー線　75Ω同軸ケーブル

■ 放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは10cm以上離して設置してください。（下図参照）

その他のご注意

■ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合は、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

■ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ プリアウト端子およびスピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

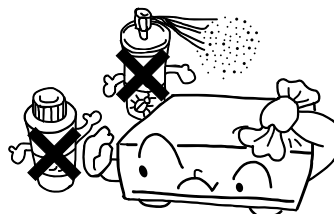
■ 説明のためのイラストは、原型と異なる場合があります。

■ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

お手入れについて

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

◎ 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

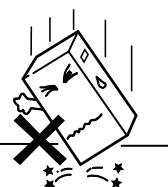
■ ふだん使わないとき

◎ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしてください。

◎ 外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 移動させるとき

◎ 衝撃を与えないでください。

◎ 必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。

3 本機の特長

1．ドルビープロロジックⅡデコーダー搭載
従来のドルビープロロジックを進化させた新しいマルチチャンネル信号の再生方式で、ドルビーサラウンド録音されたソースをはじめ、通常のステレオ録音ソースもフロント（L、R）、センターとサラウンド（L、R）の5chにデコードすることができます。
また、ソースの種類やその内容に合わせた各種のパラメータを設定できるため、より高精度な音場再生を実現できます。

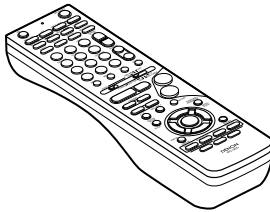
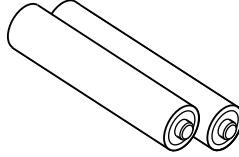
2．MPEG-2 AAC対応
本機は、BSデジタル放送の音声フォーマット「MPEG-2 AAC（ムービング・ピクチャー・エキスパーツ・グループアドバンスト・オーディオ・コーディング）」の2ch、5.1ch放送の両方に対応したデコーダーを搭載しています。

3．ドルビーデジタルデコーダー搭載
デジタル・ディスクリート方式のドルビーデジタルは、各チャンネルが独立して記録されているため、再生時のクロストークが極めて小さく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をよりリアルに再現。
また、低音効果用の0.1チャンネルを除く5チャンネルはCDと同等以上の再生帯域を持ち、より表現力豊かでクリアな音の再現を実現しています。

4．DTSデコーダー
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレートとなり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。

5．高性能DSPにより7通りの音場をシミュレート
5チャンネルステレオ、モノムービー、ロックアリーナ、ジャズクラブ、ビデオゲーム、マトリクス、バーチャルの7つのサラウンドモードの再生が可能。ドルビー/DTSサラウンド以外のステレオソースでも映画のシーンやプログラムソースに合わせて多彩なサラウンド効果をお楽しみいただけます。

6．オートサラウンドモード
入力信号に対して最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合に記憶したサラウンドモードで自動的に再生する機能です。

7．パーソナルメモリープラス機能を採用
従来のパーソナルメモリー機能をさらに進化させ、すべての入力ソースに対し、それぞれにサラウンドモード、サラウンドパラメーターなどを自動的に記憶します。

8．プリセットメモリー機能付きリモコン
DENONのリモコン対応AVコンポをはじめ、国内主要メーカーのDVDプレーヤー、CDプレーヤー、ビデオデッキ、テレビなどのリモコン操作コードをあらかじめ記憶しているプリセットメモリー機能付きリモコンを採用しています。

9．将来的なグレードアップに対応する外部入力端子を装備
新フォーマットのマルチチャンネルソース（デコーダー出力など）を接続可能な外部入力端子を1系統（6ch入力）装備しています。

4 付属品について

★本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

リモコン（RC-920）　1個	単3形乾電池　2本	取扱説明書（本書）　1冊 製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表　1枚 保証書（梱包箱に貼り付けられています）

ご注意

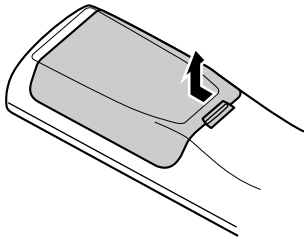
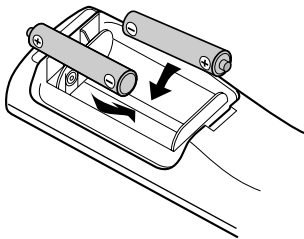
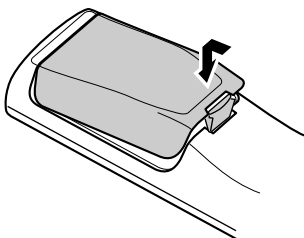
● 本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

付属品について（つづき）

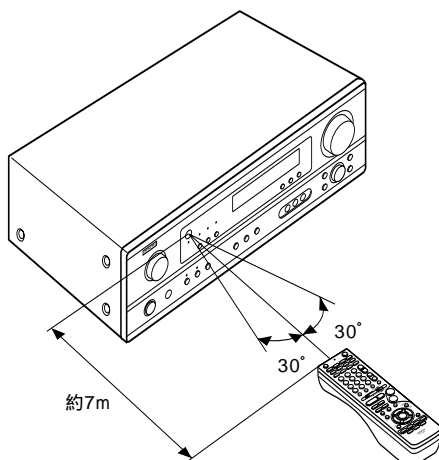
■ リモコンのご使用について

★付属のリモコン（RC-920）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のAV機器を操作することができます。また、他のリモコンのコントロール信号を記憶していますので、DENON製品以外のリモコン対応機器を操作することができます。（詳細は40〜49ページをご覧ください。）

（1）乾電池の入れかた

①矢印のように押して引き上げます。

②単3形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単3形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくても、リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに、⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - ・新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときは予め交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

（2）リモコンの使いかた

- リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30 °までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因となります。

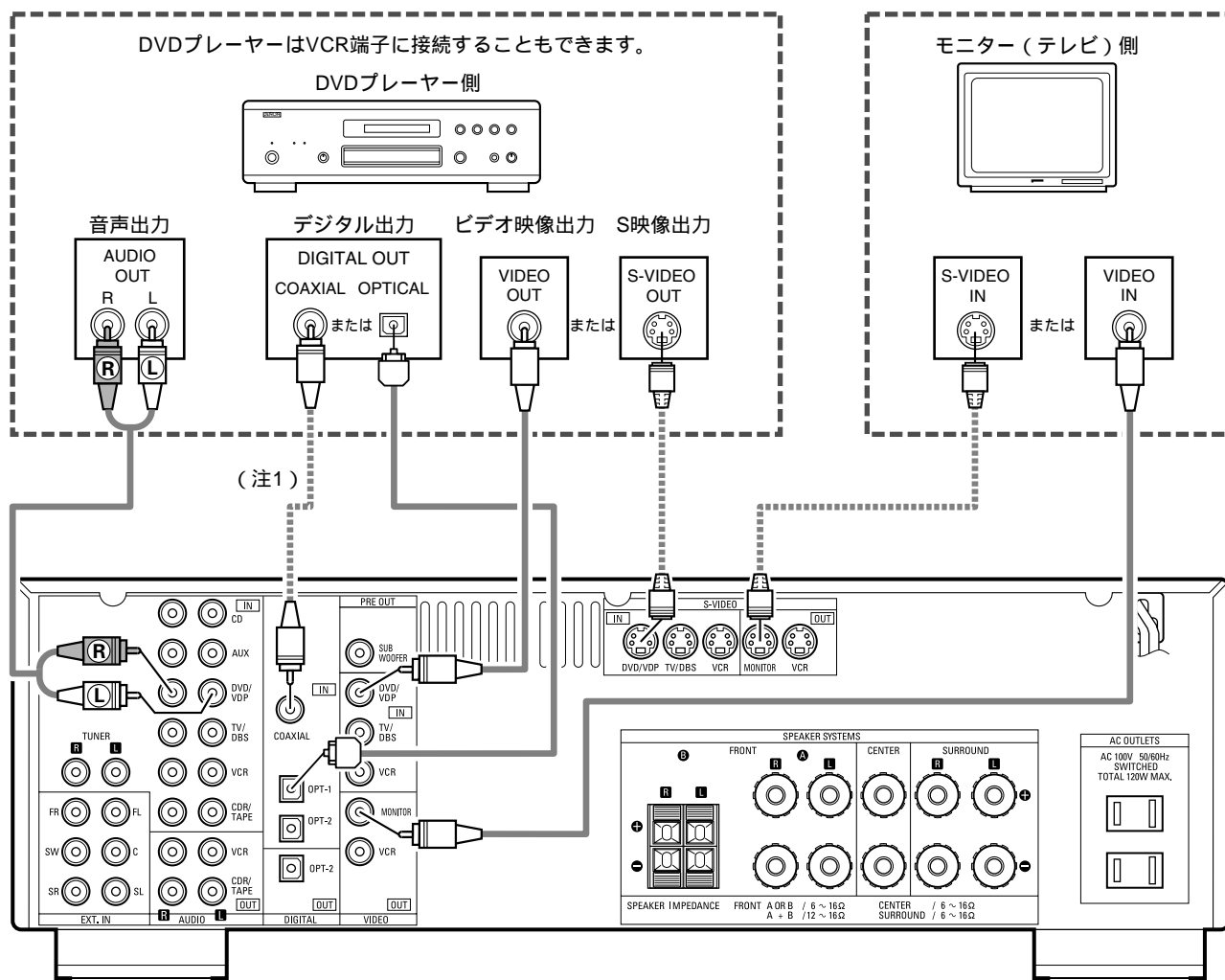
5 DVDの映画ソフトを観る

本ページから12ページまではホームシアターを簡単にお楽しみいただくための簡易ガイドです。

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- その他、接続する前に13ページの注意事項をよくお読みになり、正しく接続してください。

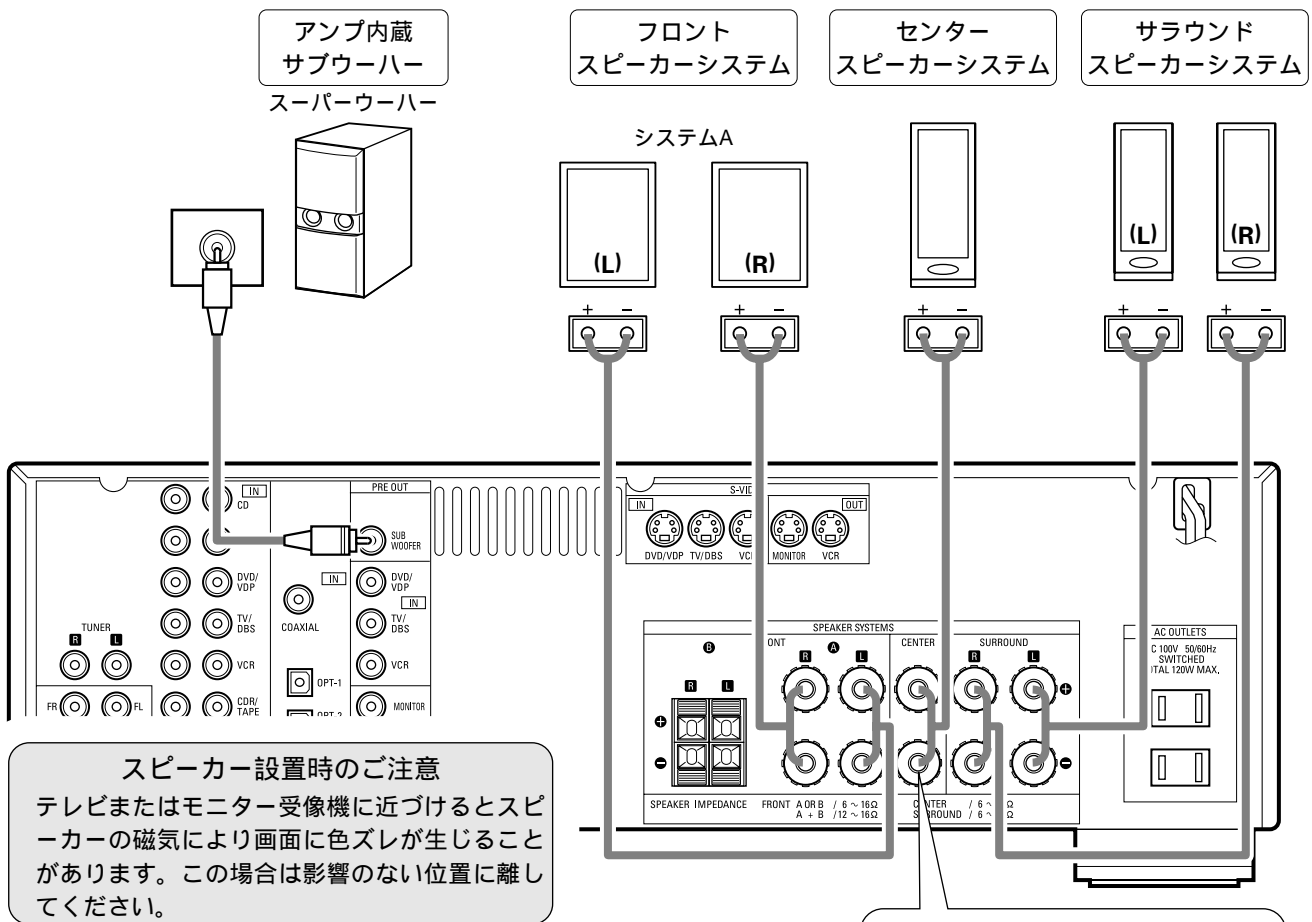
(1) DVDプレーヤーとモニター（テレビ）の接続

★お手持ちのDVDプレーヤーとモニターTVをそれぞれ接続します。
★接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
★同軸（COAXIAL）タイプの接続には市販の75Ω同軸ケーブルピンプラグコードを、また、光伝送（OPTICAL）の接続には市販の光伝送ケーブルを使用してください。
★S端子に入力された映像信号はビデオ映像出力端子（黄）からは出力されません。
また、ビデオ映像入力端子（黄）に入力された映像信号もS端子には出力されませんのでご注意ください。

- 映像用コード、音声用コードをそれぞれの端子に間違えないように接続してください。
- ドルビーデジタル、DTSなどマルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声の接続が必要です。
- DVDプレーヤーは音の品位を良くするためにアナログよりもデジタルでの接続をお勧めします。

注1：本機のDVD入力に対しては、工場出荷時はOPTICAL1（光）端子がデジタル入力として割り当てられています。COAXIAL端子でデジタル入力の接続をおこなう場合は、必ず「(4) デジタル入力の設定」をおこなってください。（11ページ参照）

DVDの映画ソフトを観る（つづき）

(2) スピーカーシステムの接続

★接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

アンプ内蔵サブウーハー
スーパーウーハー

フロントスピーカーシステム
システムA
(L) (R)

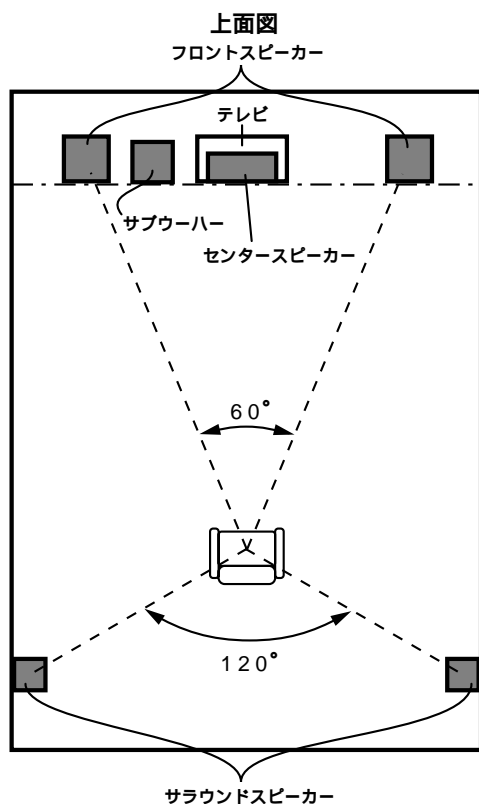
センタースピーカーシステム

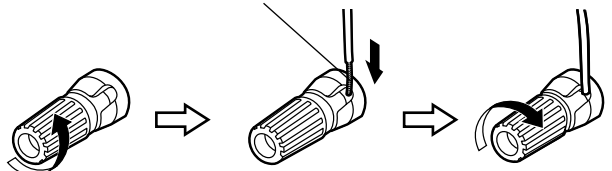
サラウンドスピーカーシステム
(L) (R)

スピーカー設置時のご注意

● テレビまたはモニター受像機に近づけるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

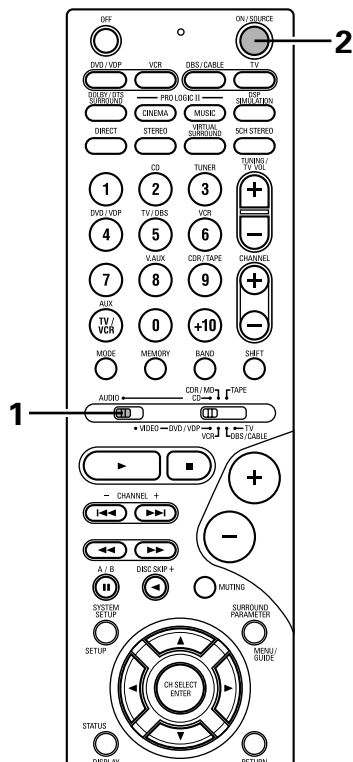
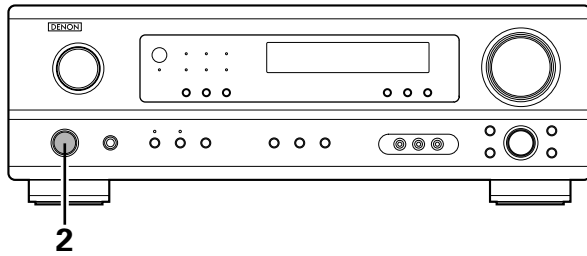
センタースピーカーを接続しない場合は、「Speaker Configurationの設定」（22ページ）を参照してセンタースピーカーを『NONE』に必ず設定してください。

■スピーカーシステム（6台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例

■スピーカーコードの接続

芯線をよくねじるか端末処理をしてください。

①スピーカー端子を左に回してゆるめます。
②コードの芯線を差し込みます。
③右に回して端子を締めます。

■バナナプラグの接続

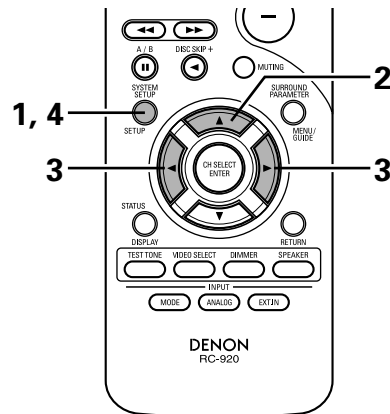
バナナプラグを使用する場合は、右に回して端子を締め付けてから挿入してください。

（3）設定の準備

1	**付属のリモコンに乾電池を入れ（8ページ参照）、モード切り替えスイッチ1を『AUDIO』の位置にします。** AUDIO • VIDEO（リモコン）
2	**本機の電源コードをコンセントにつないで、電源を入れます。** ON / STANDBY ON / SOURCE（本体）（リモコン）
3	**テレビの電源を入れ、テレビの入力画面を本機の出力映像が表示されるように設定します。** ※設定の方法は、接続したテレビの取扱説明書をご覧ください。

（4）デジタル入力の設定

DVDプレーヤーの音声デジタル出力と本機のデジタル入力を同軸（COAXIAL）ケーブルで接続した場合

★デジタル入力の設定は「（1）DVDプレーヤーとモニターの接続」（9ページ）で、同軸（COAXIAL）ケーブルで接続し再生する場合には必ず必要です。

※光伝送（OPTICAL）ケーブルで接続し再生する場合は必要ではありませんので、次のページへお進みください。

1	**システムセットアップのメニューを表示させます。** *SYSTEM SET UP（リモコン）
2	**カーソル▲ボタンを押し、項目10のCOAXIAL端子の設定に切り替えます。** 10 COAX CD（リモコン）
3	**カーソル◀ ▶ボタンを押し、COAXIAL端子に接続したDVDを選択します。** （リモコン）↓（選択） CD TUNER AUX DVD TV VCR CDR OFF ← → 10 COAX DVD
4	**セットアップを終了させます。** ●設定内容が確定します。（リモコン）

DVDの映画ソフトを観る（つづき）

（5）DVDプレーヤーの再生

1	**DVDの入力ソースを選択します。** INPUT SELECTOR（本体）　DVD / VDP 4（リモコン）
2	**ドルビー/DTSサラウンドモードを選択します。** DOLBY / DTS SURROUND（本体）　DOLBY / DTS SURROUND（リモコン）
3	**入力モードを『AUTO』にします。** ● 本体の表示が下記のようになっていることを確認します。 INPUT MODE（本体）　MODE（リモコン） SIGNAL: AAC / DIGITAL / dts INPUT: AUTO（点灯） / PCM / DTS DIGITAL（点灯） ※ 詳細は27、28ページを参照してください。
4	**DVDプレーヤーの再生をはじめます。** ※ 操作のしかたは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ◎ DOLBY DIGITAL のプログラムソースの場合：SIGNAL DIGITAL 点灯、INPUT AUTO 点灯 ◎ dts のプログラムソースの場合：SIGNAL dts 点灯、INPUT AUTO 点灯
5	**音量を調節します。** -20 音量が主音量レベル表示に表示されます。 MASTER VOLUME（本体）　＋ / －（リモコン）

（6）最適なサラウンド再生を楽しむために

★ 最適なサラウンド再生をおこなうためには各種パラメーターを設定することが必要です。

- 「8 システムセットアップのしかた」（20～26ページ）を参照して、組み合わせるスピーカーシステムやスピーカーレイアウトに合わせた設定をおこなってください。
- 「9 操作のしかた」（27～33ページ）を参照して、お好みのサラウンドモードを選択してください。

6 接続のしかた

(1) オーディオ機器および外部入力(EXT. IN)端子の接続

★接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因となります。
- ACアウトレットへはオーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。CDプレーヤーやテープデッキなど、本機に接続した機器の電源プラグを差し込んでおくと便利です。
- 接続コードと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスの近くに接続コードを設置しますと、ハムや雑音の原因となることがあります。

デジタル入出力端子への接続について

- デジタル出力端子の付いている機器を本機のデジタル入力端子へ接続します。接続後はデジタル入力の設定をおこなってください。(25ページ参照)
- 同軸(COAXIAL)タイプの接続には、市販の75Ω同軸ケーブルピンプラグコードを使用してください。
- 光伝送(OPTICAL)の接続には市販の光伝送ケーブルを使用してください。

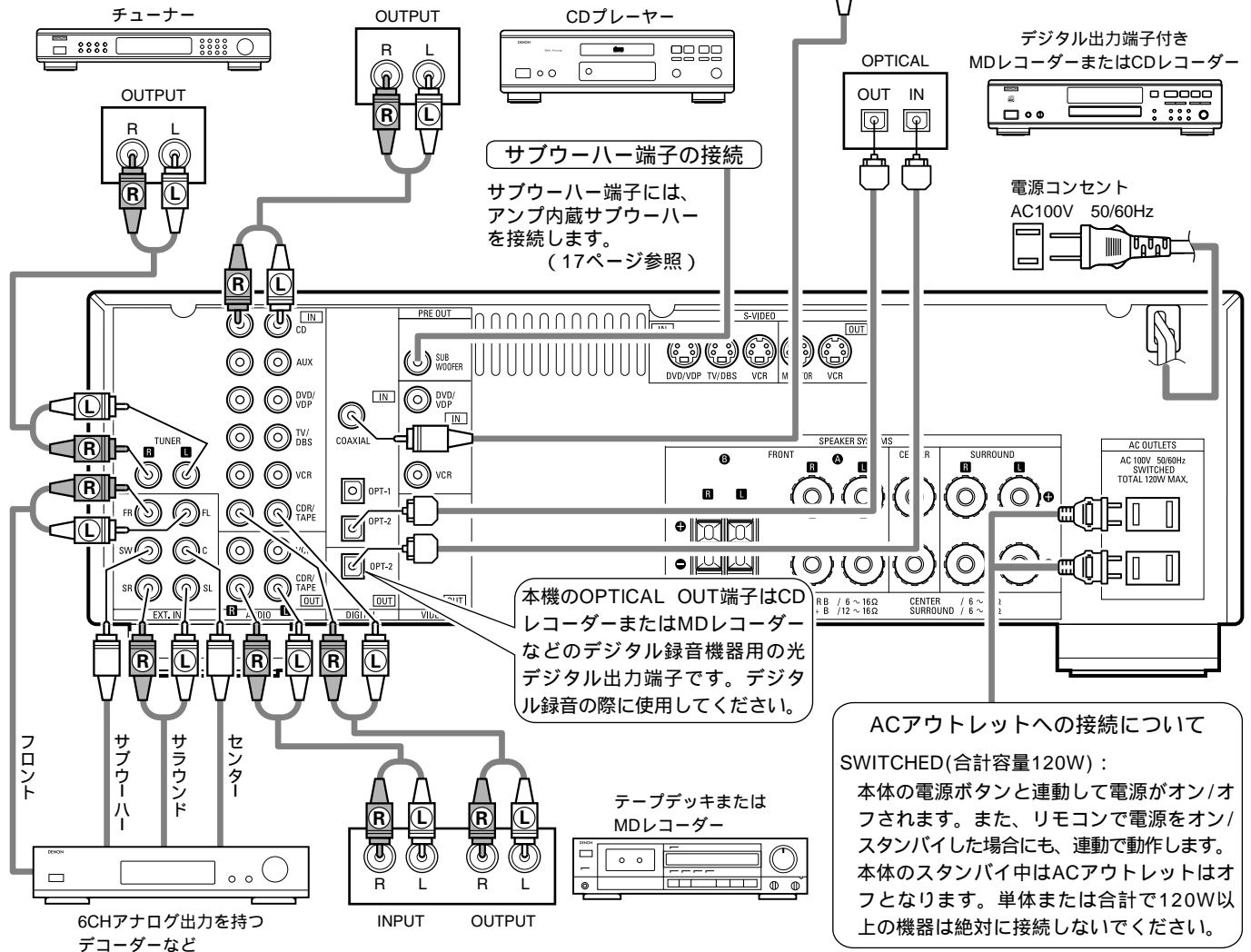
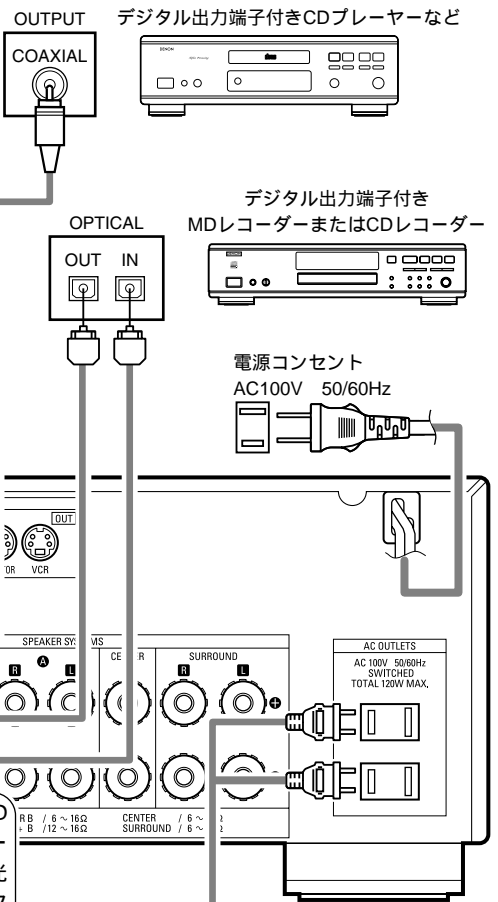
チューナーの接続

チューナーの出力(OUTPUT)端子と本機のチューナー端子をピンプラグコードで接続します。

CDプレーヤーの接続

CDプレーヤーのアナログ出力(ANALOG OUT)端子と本機のCD端子をピンプラグコードで接続します。

サブウーハー端子の接続

サブウーハー端子には、アンプ内蔵サブウーハーを接続します。
(17ページ参照)

本機のOPTICAL OUT端子はCDレコーダーまたはMDレコーダーなどのデジタル録音機器用の光デジタル出力端子です。デジタル録音の際に使用してください。

ACアウトレットへの接続について

SWITCHED(合計容量120W):

- 本体の電源ボタンと連動して電源がオン/オフされます。また、リモコンで電源をオン/スタンバイした場合にも、連動で動作します。
- 本体のスタンバイ中はACアウトレットはオフとなります。単体または合計で120W以上の機器は絶対に接続しないでください。

ハイビジョン(MUSE3-1方式)を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合には、市販のモノ、ステレオケーブルを使用してください。

テープデッキの接続

録音用の接続:テープデッキの録音入力(LINE INまたはREC)端子と本機のテープ録音(OUT)端子をピンプラグコードで接続します。

再生用の接続:テープデッキの再生出力(LINE OUTまたはPB)端子と本機のテープ再生(IN)端子をピンプラグコードで接続します。

ご注意

本機にデジタルで入力された信号は、アナログで録音することはできません。アナログで録音するときは、再生機器のアナログ信号を本機のアナログ入力端子に同時に接続してください。

接続のしかた（つづき）

(2) 他のビデオ機器の接続

★映像信号を接続するときは、必ず市販の映像用75Ω同軸ピンプラグコードを使用してください。
★接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

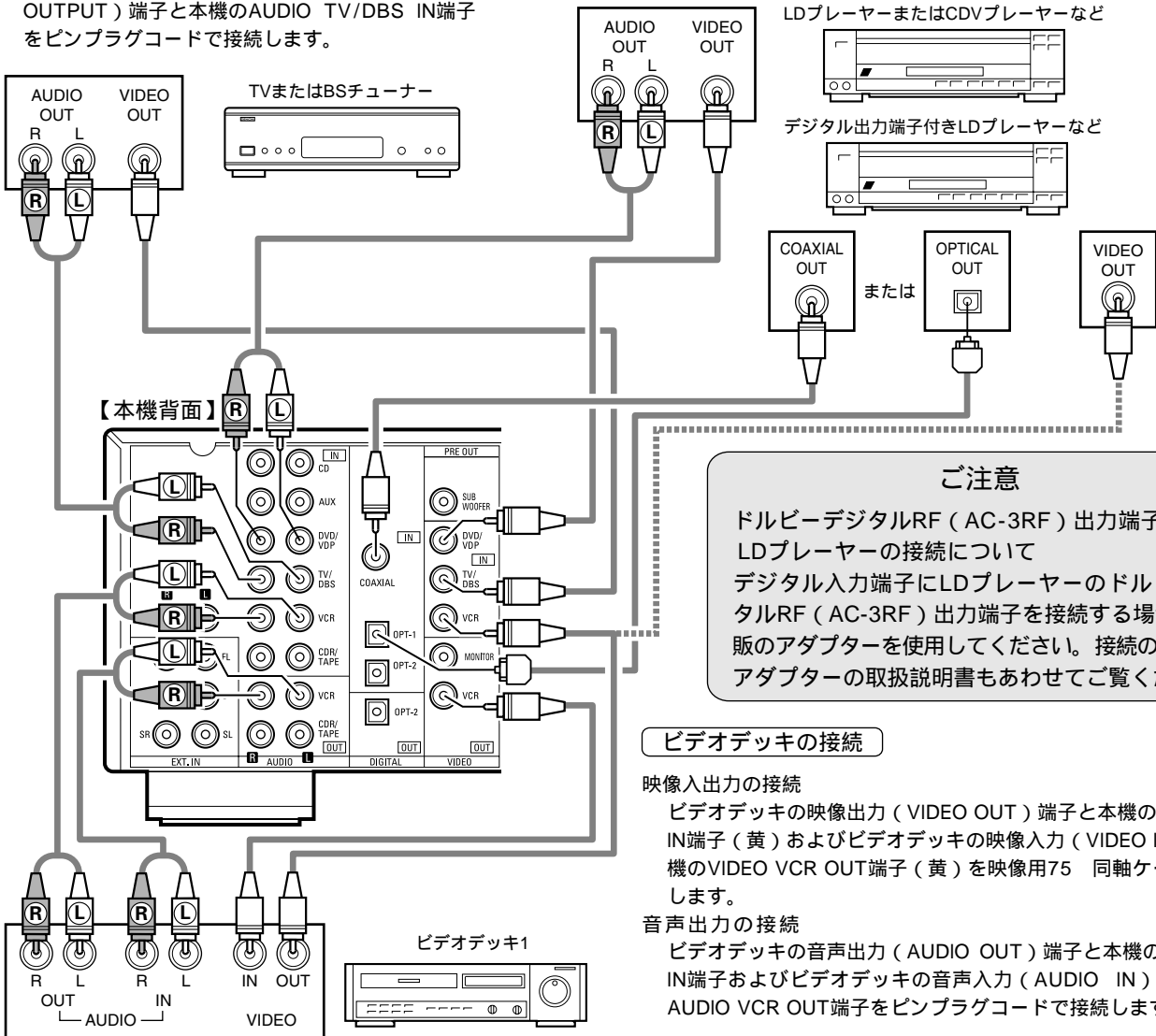
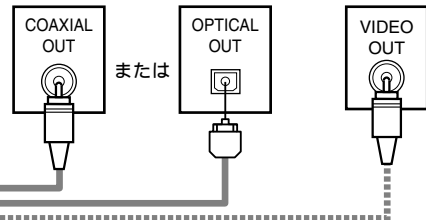
TV/BSチューナーの接続

TV/DBS端子

- TVまたはBSチューナーの映像出力（VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO TV/DBS IN端子（黄）を映像用75Ω同軸ケーブルで接続します。
- TVまたはBSチューナーの音声出力（AUDIO OUTPUT）端子と本機のAUDIO TV/DBS IN端子をピンプラグコードで接続します。

LDプレーヤー（VDP）の接続

- LDプレーヤーの映像出力（VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO DVD/VDP IN端子（黄）を映像用75Ω同軸ケーブルで接続します。
- LDプレーヤーのアナログ音声出力（ANALOG AUDIO OUTPUT）端子と本機のAUDIO DVD/VDP IN端子をピンプラグコードで接続します。

※ LDプレーヤーはVCR端子に接続することもできます。

> **ご注意**
>
> - **ドルビーデジタルRF（AC-3RF）出力端子付きLDプレーヤーの接続について**
>
>   デジタル入力端子にLDプレーヤーのドルビーデジタルRF（AC-3RF）出力端子を接続する場合は、市販のアダプターを使用してください。接続の際には、アダプターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ビデオデッキの接続

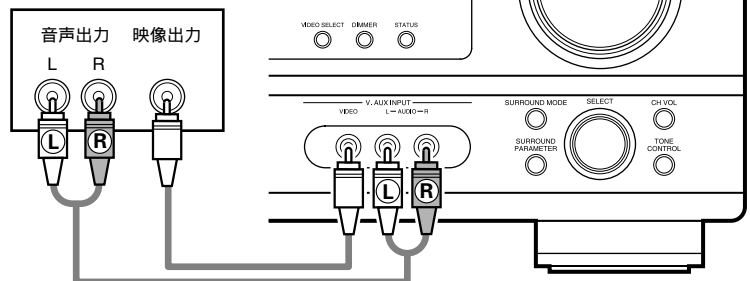
映像入出力の接続

ビデオデッキの映像出力（VIDEO OUT）端子と本機のVIDEO VCR IN端子（黄）およびビデオデッキの映像入力（VIDEO IN）端子と本機のVIDEO VCR OUT端子（黄）を映像用75Ω同軸ケーブルで接続します。

音声出力の接続

ビデオデッキの音声出力（AUDIO OUT）端子と本機のAUDIO VCR IN端子およびビデオデッキの音声入力（AUDIO IN）端子と本機のAUDIO VCR OUT端子をピンプラグコードで接続します。

ビデオカメラまたはテレビゲーム機器の接続

- ビデオカメラまたはテレビゲーム機器の映像出力（VIDEO OUTPUT）端子と本機のV. AUX INPUTのVIDEO端子を映像用75Ω同軸ピンプラグコードで接続します。
- ビデオカメラまたはテレビゲーム機器のアナログ音声出力（ANALOG AUDIO OUTPUT）端子と本機のV. AUX INPUTのAUDIO端子をピンプラグコードで接続します。

接続のしかた（つづき）

（3）S映像端子付きビデオ機器の接続

★接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
★S端子に入力された映像信号は、ビデオ映像出力端子（黄）からは出力されません。
　また、ビデオ映像入力端子（黄）に入力された映像信号もS端子には出力されませんのでご注意ください。

LDプレーヤー（VDP）またはCDVプレーヤーの接続

DVD/VDP端子

- LDプレーヤーまたはCDVプレーヤーのS映像出力端子と本機のS-VIDEO DVD/VDP IN端子をS端子用接続コードで接続します。

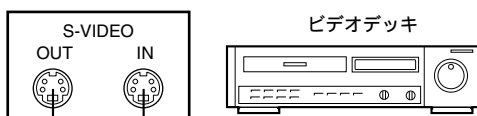
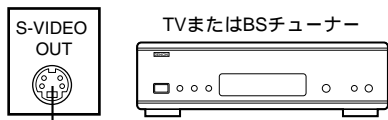
ビデオデッキの接続

VCR端子

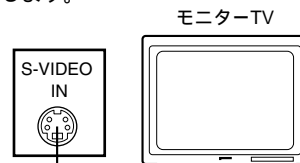
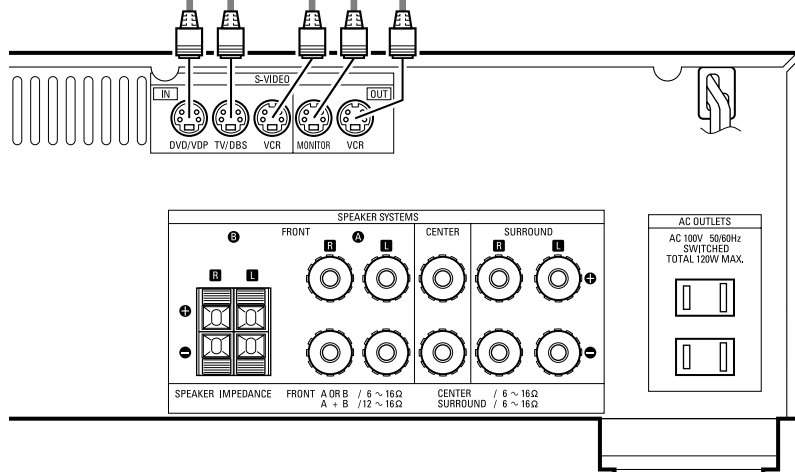
- ビデオデッキのS出力端子と本機のS-VIDEO VCR IN端子、およびビデオデッキのS入力端子と本機のS-VIDEO VCR OUT端子間をS端子用接続コードで接続します。

TV/BSチューナーの接続

TV/DBS端子

- TVまたはBSチューナーのS端子映像出力端子と本機のS-VIDEO TV/DBS IN端子をS端子用接続コードで接続します。

モニターTVの接続

MONITOR OUT端子

- TVのS映像入力端子と本機のS-VIDEO MONITOR OUT端子をS端子用接続コードで接続します。

それぞれの機器の音声入出力については、14ページと同様に接続をおこなってください。

(4) スピーカーシステムの接続

■スピーカーのインピーダンスについて

- フロント用スピーカーAまたはBのどちらか一方を使用する場合は、インピーダンスが6～16Ωのスピーカーをご使用ください。
- フロント用スピーカー2組（A+B）を同時に使用する場合は、インピーダンスが12～16Ωのスピーカーをご使用ください。
- センターおよびサラウンド用スピーカーは、インピーダンスが6～16Ωのスピーカーをご使用ください。
- 指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用して、長時間にわたって再生したり、大出力で楽しんだりすると、保護回路が動作することがあります。

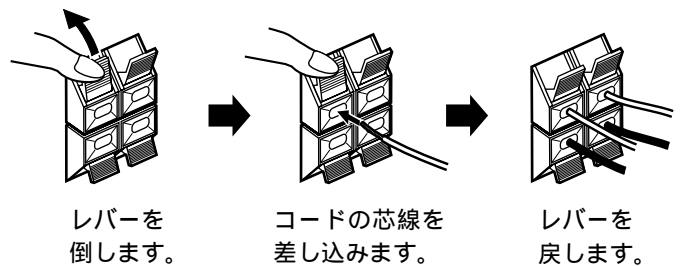
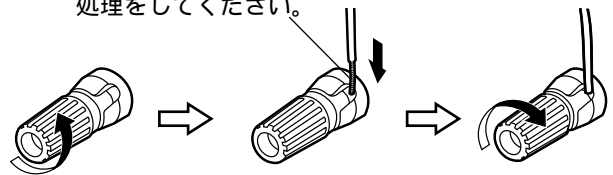
保護回路について

本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、セットの周囲の温度が異常に高くなったり、あるいは長時間にわたり、本機を大出力で使用した際の極端な温度上昇などが発生した場合に、スピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作するとスタンバイ状態になり、電源表示インジケーターが点滅します。このような場合は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜き、スピーカーコードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待って周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。
配線や本機の周囲の通風に問題がないにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、本機の電源プラグをコンセントから抜いた上で弊社のお客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

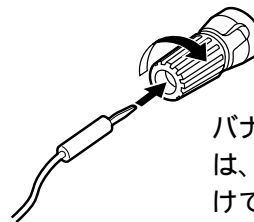
スピーカーインピーダンスにおけるご注意

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例えば、スピーカーインピーダンスが4Ωなど）を使用して、長時間にわたり大出力で再生したりすると、極端な温度上昇などにより保護回路が動作することがあります。保護回路が動作すると、スタンバイ状態になり電源表示インジケーターが点滅しますので、電源プラグをコンセントから抜き、本機が冷えるのを待って周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。

■スピーカーコードの接続

①レバーを倒します。　②コードの芯線を差し込みます。　③レバーを戻します。

①スピーカー端子を左に回してゆるめます。　②コードの芯線を差し込みます。　③右に回して端子を締めます。

- スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。
- 接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーコードの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないようにご注意ください。

■バナナプラグの接続

バナナプラグを使用する場合は、右に回して端子を締め付けてから挿入してください。

ご注意

- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

接続のしかた（つづき）

■通常の接続のしかた

★接続の際は、スピーカーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

アンプ内蔵サブウーハー

スーパーウーハー

フロントスピーカーシステム

システムA

(L) (R)

センタースピーカーシステム

サラウンドスピーカーシステム

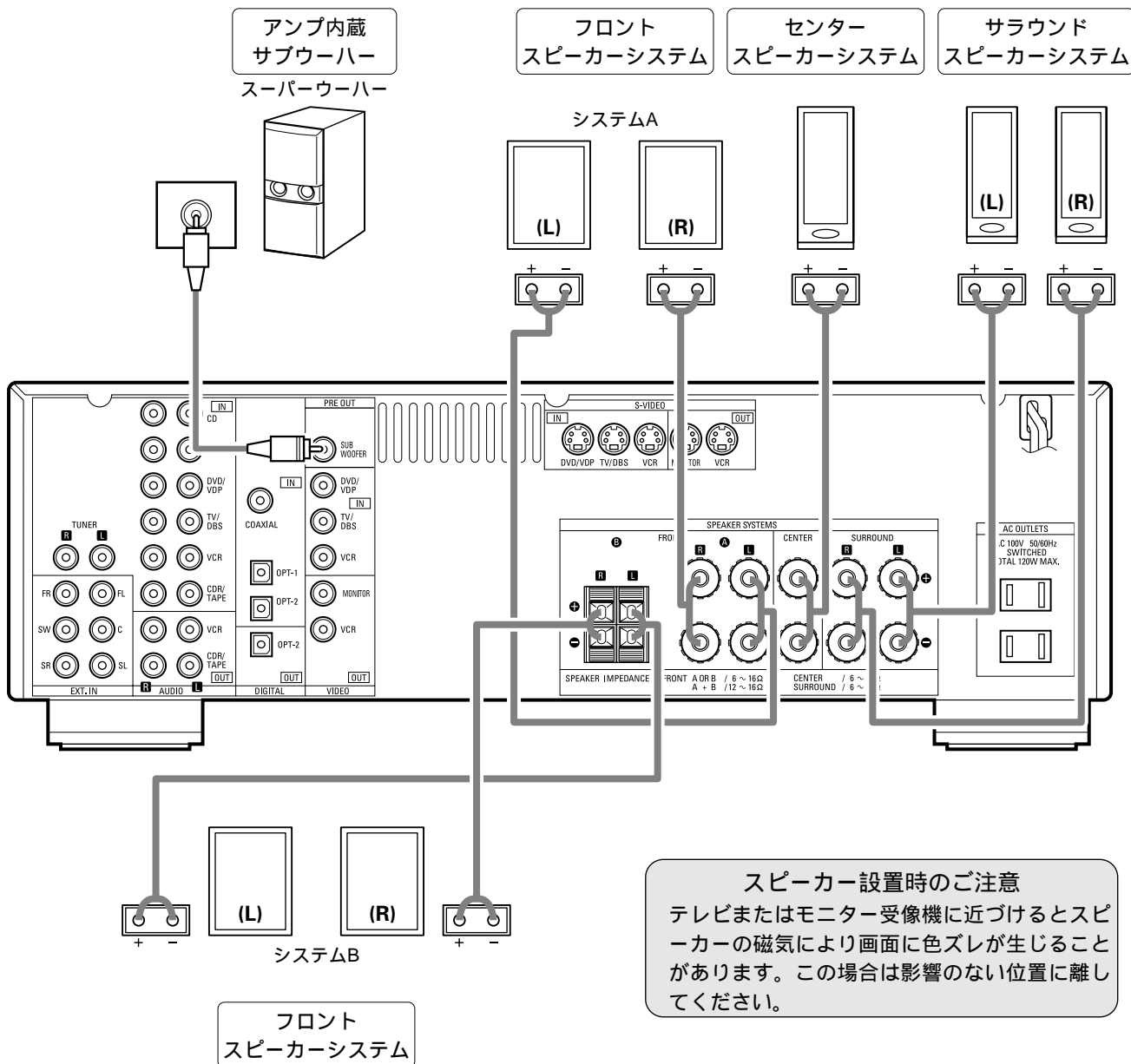
(L) (R)

システムB

(L) (R)

フロントスピーカーシステム

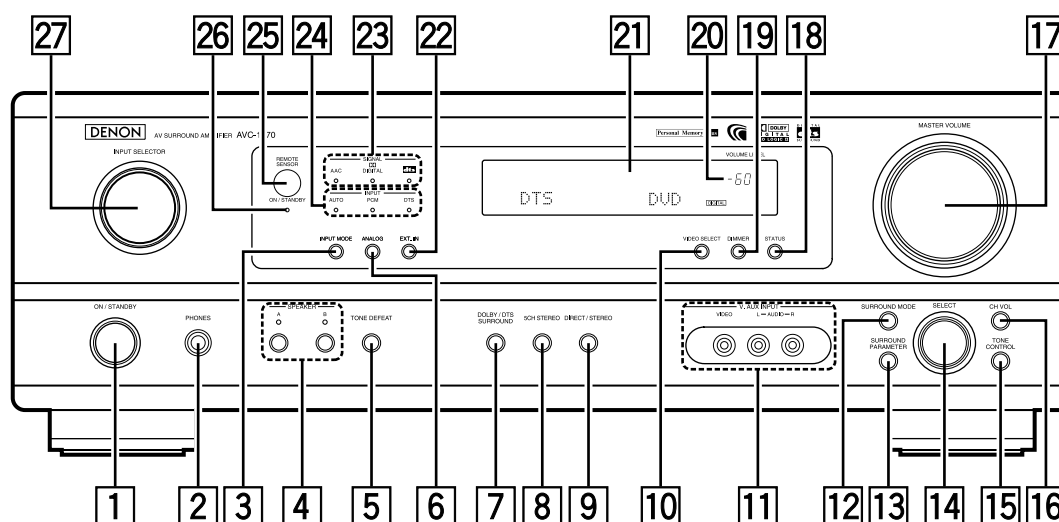
スピーカー設置時のご注意

● テレビまたはモニター受像機に近づけるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

ステレオ音のエチケット

◎楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
◎隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
◎特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
◎お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

7 各部の名前

(1) フロントパネル

★各部のはたらきなど、くわしい説明については（　）内のページを参照してください。

1 **電源ボタン**
（ON/STANDBY）　（21、27、54）

2 **ヘッドホン端子（PHONES）**　（38）

3 **入力モード切り替えボタン**
（INPUT MODE）　（27、30、33、37）

4 **スピーカーボタンおよびスピーカーシステム表示LED（SPEAKER A/B）**　（27、54）

5 **トーンデフィートボタン**
（TONE DEFEAT）　（38）

6 **アナログ入力ボタン**
（ANALOG）　（27、37、39）

7 **ドルビー/DTSサラウンドボタン**
（DOLBY/DTS SURROUND）
（29、30、32、33）

8 **5CHステレオボタン**
（5CH STEREO）　（34）

9 **ダイレクト/ステレオボタン**
（DIRECT/STEREO）　（34）

10 **ビデオセレクトボタン**
（VIDEO SELECT）　（38）

11 **V. AUX入力端子（V. AUX INPUT）**　（14）

12 **サラウンドモードボタン**
（SURROUND MODE）　（28、36）

13 **サラウンドパラメーターボタン**
（SURROUND PARAMETER）
（30〜32、36）

14 **セレクトつまみ**
（SELECT）　（28〜32、36〜38）

15 **トーンコントロールボタン**
（TONE CONTROL）　（38）

16 **チャンネル音量調節ボタン**
（CH VOL）　（29）

17 **主音量調節つまみ**
（MASTER VOLUME）　（28）

18 **ステータスボタン（STATUS）**　（38）

19 **ディマーボタン（DIMMER）**　（38）

20 **主音量表示（VOLUME LEVEL）**　（28）

21 **ディスプレイ**

22 **外部入力ボタン（EXT. IN）**　（27、37）

23 **デジタル入力信号表示LED**
（SIGNAL）　（28、30、33）

24 **入力モード表示LED（INPUT）**　（28）

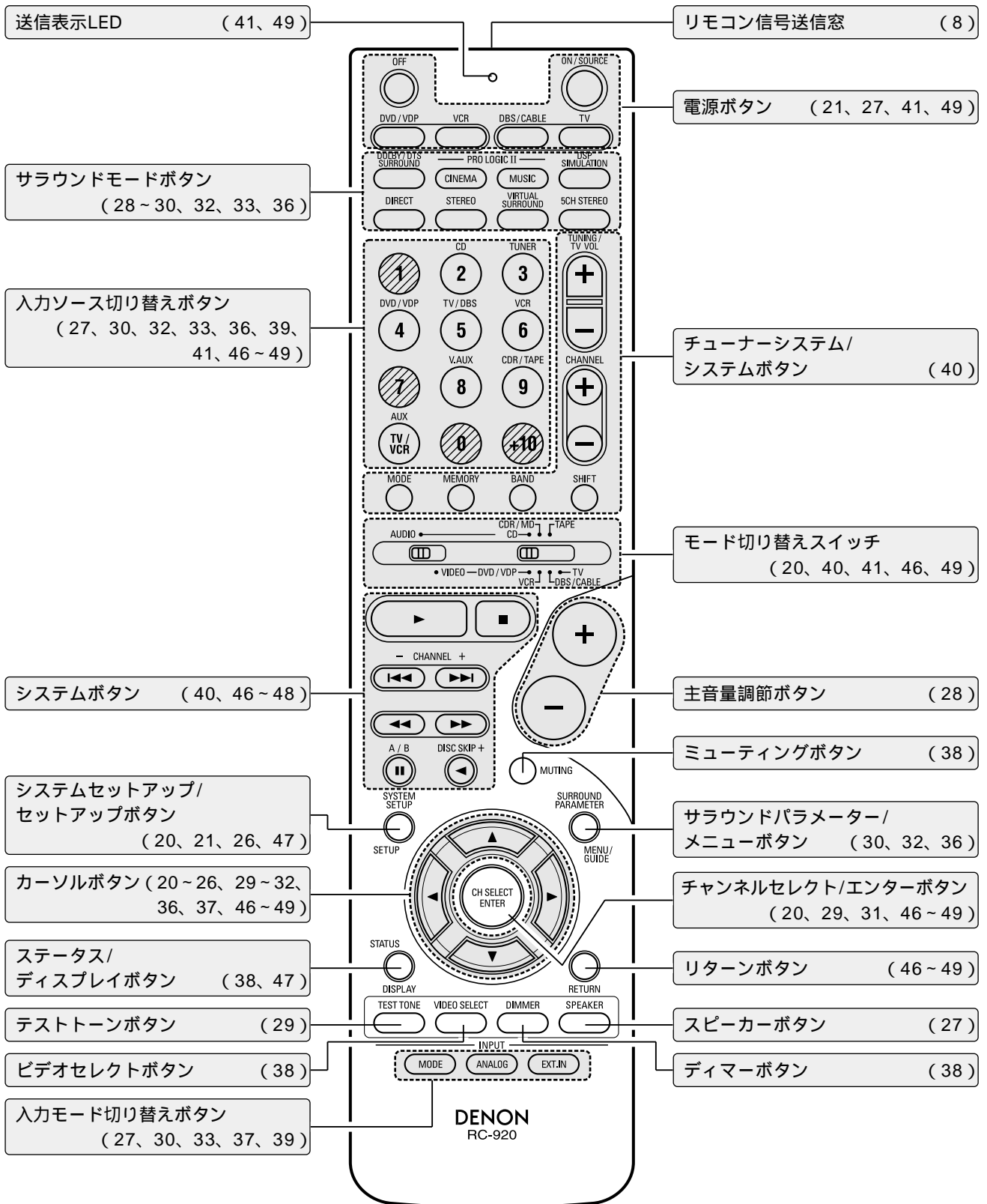
25 **リモコン受光部**
（REMOTE SENSOR）　（8）

26 **電源表示LED**

27 **入力ソース切り替えつまみ**
（INPUT SELECTOR）
（27、30、32、33、36、39）

各部の名前（つづき）

(2) リモコン

★各部のはたらきなど、くわしい説明については（　）内のページを参照してください。

ご注意

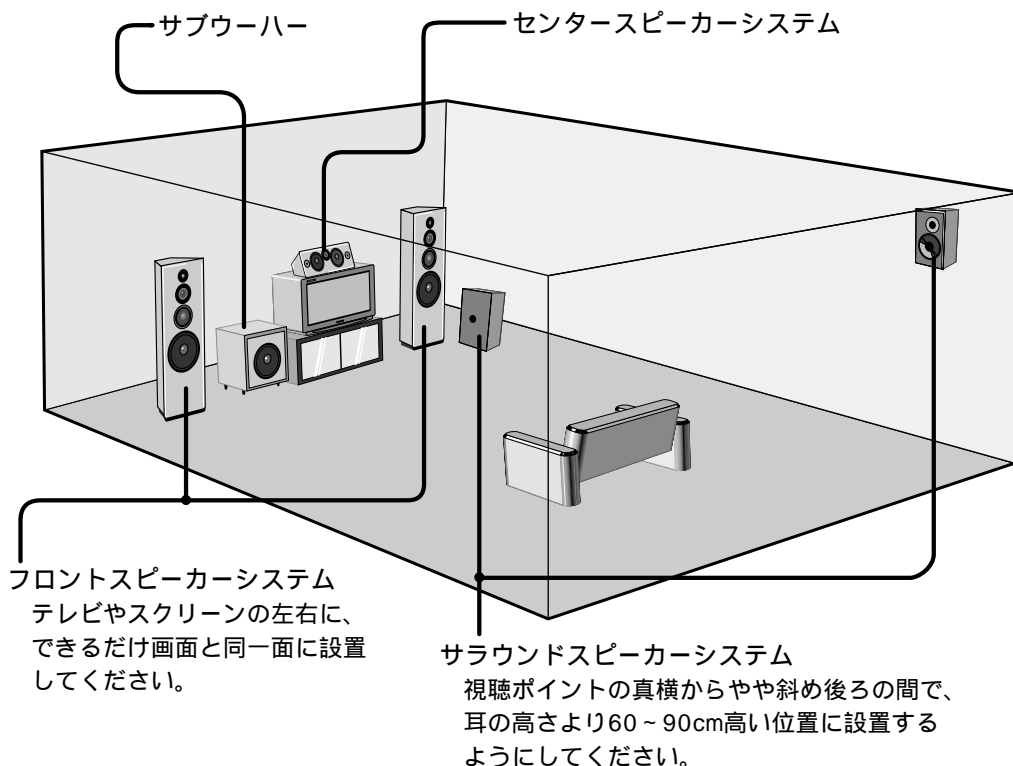
▨部のボタンは本機では機能しません。（押しても動作しません。）

8 システムセットアップのしかた

■スピーカーシステムのレイアウト

スピーカーシステム（6台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

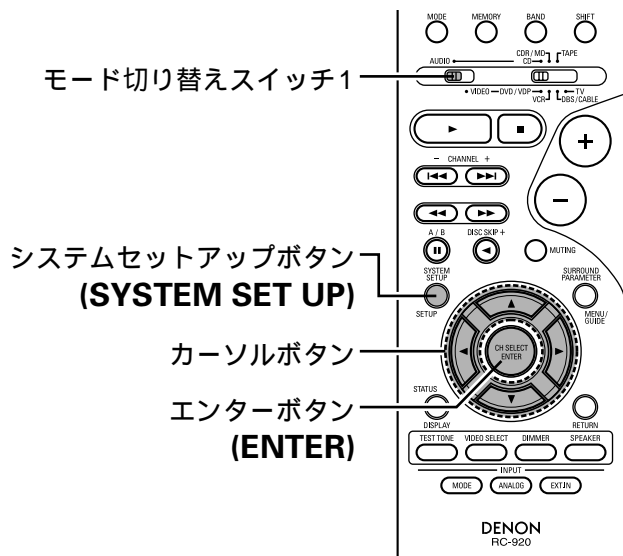
フロントスピーカーシステム
テレビやスクリーンの左右に、できるだけ画面と同一面に設置してください。

サラウンドスピーカーシステム
視聴ポイントの真横からやや斜め後ろの間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に設置するようにしてください。

◎フロント、センタースピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならない所に置いてください。

◎サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。

◎センタースピーカーをテレビの上に置いたり、サラウンドスピーカーを壁につるす場合、地震で落下したりしないよう、しっかりと固定してください。

(1) システムセットアップの内容

★「接続のしかた」（13〜17ページ参照）に従って他のAV機器との接続が終わったら、本機のディスプレイで各種セッティングをおこないます。
これによりはじめて本機をメインとしたリスニングルームのAVシステムが完成します。

1	**リモコンのモード切り替えスイッチ1を『AUDIO』の位置にします。**
2	**システムセットアップはリモコンの下記のボタンでおこないます。** ◎**システムセットアップ（SYSTEM SETUP）ボタン** システムセットアップのメニューを表示させるときに押します。 ◎**エンター（ENTER）ボタン** システムセットアップの項目を切り替えるとき、また、設定を確定するときに押します。 ◎**カーソルボタン（▲、▼、◄、►）** ディスプレイの表示を切り替えるときに押します。

システムセットアップのしかた（つづき）

【システムセットアップの内容と初期設定（工場出荷時）】

<table>
<tr><th colspan="3">システムセットアップ</th><th colspan="4">初期設定</th></tr>
<tr><td rowspan="2">Speaker Configuration</td><td colspan="2" rowspan="2">サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせの有無や、低域の再生能力に応じた大きさを入力することにより、本機内部で自動的に各スピーカーから出力される信号の成分や周波数特性が設定されます。</td><td>FRONT</td><td>CENTER</td><td>SURROUND</td><td>SUBWOOFER</td></tr>
<tr><td>LARGE</td><td>SMALL</td><td>SMALL</td><td>YES</td></tr>
<tr><td>Subwoofer Mode</td><td colspan="2">重低音信号を再生するサブウーハー・スピーカーを選択します。</td><td colspan="4">NORMAL</td></tr>
<tr><td>Crossover Frequency</td><td colspan="2">各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。</td><td colspan="4">80Hz</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Delay Time</td><td colspan="2" rowspan="2">リスニングポジションに応じて各スピーカー、サブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。</td><td>FRONT/SUBWOOFER</td><td>CENTER</td><td colspan="2">SURROUND</td></tr>
<tr><td>3.6m</td><td>3.6m</td><td colspan="2">3.0m</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Digital Inputs</td><td rowspan="2">デジタル入力端子に対して、入力ソースを割り当てます。</td><td>デジタル入力</td><td>COAXIAL</td><td>OPTICAL-1</td><td colspan="2">OPTICAL-2</td></tr>
<tr><td>入力ソース</td><td>CD</td><td>DVD/VDP</td><td colspan="2">TV/DBS</td></tr>
<tr><td>Auto Surround Mode</td><td colspan="2">入力信号に対して最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合に記憶したサラウンドモードで自動的に再生を設定します。</td><td colspan="4">ON</td></tr>
<tr><td>Ext. In SW Level</td><td colspan="2">EXT. IN端子に接続されたサブウーハーチャンネルの再生レベルを設定します。</td><td colspan="4">+15dB</td></tr>
<tr><td>Bilingual Mode</td><td colspan="2">ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、各スピーカーの出力を設定します。</td><td colspan="4">MAIN / SUB</td></tr>
</table>

(2) システムセットアップの前に

1 **電源を入れます。**

※リモコンのモード切り替えスイッチ1が『AUDIO』に設定されていることを確認してください。

（本体）　（リモコン）

2 **システムセットアップのメニューを表示させます。**

（リモコン）

3 **エンターボタンを押して Speaker Configuration（スピーカー コンフィグレーション）の設定に切り替えます。**

（リモコン）　または　（リモコン）

ご注意

- システムセットアップは“HEADPHONE ONLY”（ヘッドホンのみの出力）が設定されている場合、表示されません。
- システムセットアップを終了したいときは、再びシステムセットアップ（SYSTEM SET UP）ボタンを押してください。
  システムセットアップはどの段階でも終了させることができますが、それまでに変更した設定内容は確定されます。

（3）Speaker Configuration（スピーカーの種類・有り無し）の設定

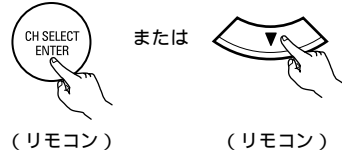
1 **フロントスピーカーの大きさのパラメーターを選択します。**

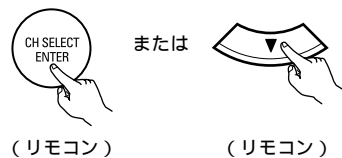
2 **センタースピーカーの設定に切り替えます。**

3 **センタースピーカーの大きさのパラメーターを選択します。**

※フロントスピーカーで『SMALL』を選択したときは、センタースピーカーで『LARGE』を選択することはできません。

4 **サラウンドスピーカーの設定に切り替えます。**

5 **サラウンドスピーカーの大きさのパラメーターを選択します。**

※フロントスピーカーで『SMALL』を選択したときは、サラウンドスピーカーで『LARGE』を選択することはできません。

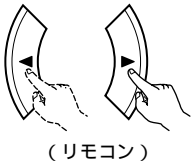
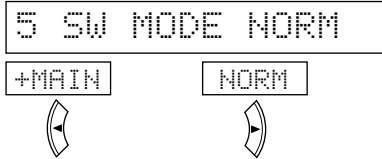
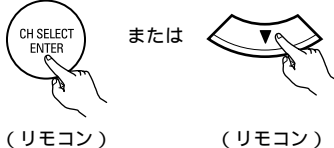
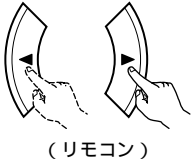
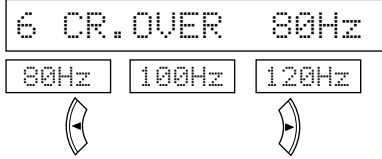
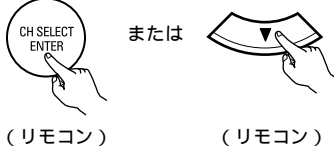
6 **サブウーハーの設定に切り替えます。**

7 **サブウーハーの有無を選択します。**

8 **Subwoofer Mode（サブウーハーモード）の設定に切り替えます。**

パラメーターについて

LARGE（ラージ）：
80Hz以下の低音を十分再生できるスピーカーを使用するときに選択します。

SMALL（スモール）：
80Hz以下の低音再生に十分な音量が得られないスピーカーを使用するときに選択します。この設定をおこなった場合、80Hz以下の低音はサブウーハーに振り分けられます。

NONE（ノーン）：
スピーカーを設置していないときに選択します。

YES/NO（イエス/ノー）：
サブウーハーを設置しているときには『YES』、設置していないときには『NO』を選択します。

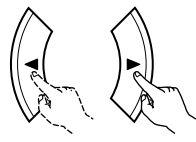
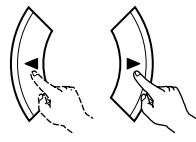
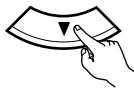
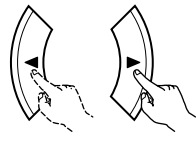
ご注意

- LARGE/SMALLの選択はスピーカーの外形で判断せずに、80Hzを基準とした低域・再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で『SMALL』に設定した場合と、『LARGE』に設定した場合の音を比較した上で選択してください。

(4) Subwoofer Mode（サブウーハー出力）および Crossover Frequency（クロスオーバー周波数）の設定

クロスオーバー周波数について

- 「Speaker Configurationの設定」でサブウーハーを『YES』に設定したとき、各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下（クロスオーバー周波数）で出力するかを設定します。
  『SMALL』に設定したスピーカーは、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力され、カットされた低音域はサブウーハーから出力します。

ご注意：

一般的なスピーカーシステムを使用する場合は、クロスオーバー周波数を80Hzに設定することを推奨しますが、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することで、クロスオーバー周波数付近での周波数特性を改善できる場合もあります。

ご注意

ー低音域の振り分けについてー

- サブウーハーチャンネルから再生される信号はLFE（DOLBY DIGITALまたはDTS信号再生時のみ）とセットアップメニューで『SMALL』と指定されたチャンネルの低音域信号のみです。
  また、LARGEに指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルから再生されます。

ーSubwoofer Modeについてー

- Subwoofer Modeの設定は「Speaker Configurationの設定」（22ページ参照）でフロントスピーカーを『LARGE』、サブウーハーを『YES』に設定した場合のみ有効です。フロントスピーカーを『SMALL』または、サブウーハーを『NO』に設定した場合は、本設定は低音域に影響しません。
- 『+MAIN』再生モードを選択すると、LARGEに指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルとサブウーハーチャンネルから同時に再生されます。この再生モードでは、より均一な低音域が室内に広がりますが、部屋の大きさと形によっては干渉のために実際の低音域音量が低下することがあります。
- 『NORM』再生モードを選択すると、LARGEに指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルからのみ再生されます。この再生モードは室内の低音域干渉が起こりにくくなります。
- 音楽ソースや映画ソースを再生してみて、量感のある低音域が得られる方の再生モードを選択してください。

（5）Delay Time（ディレイタイム）の設定

★ リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。

準備： リスニングポジションと各スピーカーとの距離（下図のL_1〜L_3）を測定します。

L_1： センタースピーカーと
リスニングポジションとの距離

L_2： フロントスピーカーと
リスニングポジションとの距離

L_3： サラウンドスピーカーと
リスニングポジションとの距離

1

フロントスピーカーまたはサブウーハーとリスニングポジションとの距離を設定します。

（リモコン）

```
7 FRNT/SW   3.6m
```

- ボタンを押すたびに数値が0.1m単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選択します。
- Speaker Configuration（スピーカー　コンフィグレーション）でサブウーハー=YESを選択したときに“ /SW ”が表示されます。

2

センタースピーカーの設定に切り替えます。

（リモコン）

または

（リモコン）

3

センタースピーカーとリスニングポジションとの距離を設定します。

（リモコン）

```
8 CENTER    3.6m
```

4

サラウンドスピーカーの設定に切り替えます。

（リモコン）

または

（リモコン）

5

サラウンドスピーカーとリスニングポジションとの距離を設定します。

（リモコン）

```
9 SURR.     3.0m
```

6

Digital Inputs（デジタル　インプッツ）の設定に切り替えます。

（リモコン）

または

（リモコン）

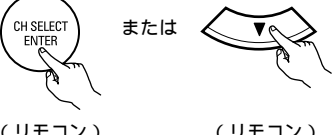
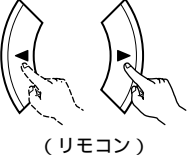
※センターおよびサラウンドスピーカーのパラメーター設定で『NONE』を選択したときは、距離の設定はできません。（22ページ参照）

ご注意

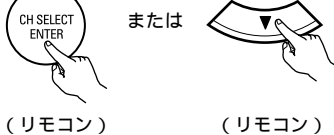
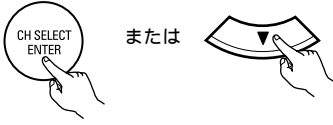
- センタースピーカーは、フロントスピーカー（左/右）またはサブウーハーまでの距離と同じ（L_2=L_1）か、距離の差（L_2－L_1）が1.5m以下になるように置いてください。
- サラウンドスピーカー（左/右）は、フロントスピーカー（左/右）またはサブウーハーまでの距離と同じ（L_2=L_3）か、距離の差（L_2－L_3）が4.5m以下になるように置いてください。

システムセットアップのしかた（つづき）

(6) Digital Inputsの設定（デジタル入力）

★本機のデジタル入力端子に接続したAV機器の種類を入力します。

(7) Auto Surround Modeの設定（オートサラウンドモード）

★下記の3種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合には記憶したサラウンドモードで自動的に再生します。
なお、サラウンドモードは各入力ソースに対しても個別に記憶されます。

入　力　信　号	初期設定
① アナログおよびPCMの2チャンネル信号	STEREO
② ドルビーデジタルの2チャンネル信号	DOLBY PLII Cinema
③ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号のマルチチャンネル信号	DOLBY またはDTS SURROUND

システムセットアップのしかた（つづき）

（8）Ext. In SW Levelの設定（外部入力端子のサブウーハー）

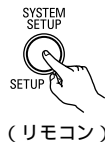
★EXT. IN端子に接続されたサブウーハーチャンネルの再生レベルを設定します。

1 **サブウーハーの出力レベルを設定します。**

2 **Billingual Modeの設定に切り替えます。**

CH SELECT ENTER（リモコン） または ▼（リモコン）

（9）Bilingual Modeの設定（バイリンガル）

★AACソースおよびドルビーデジタルソースの音声出力内容を設定します。

1 **音声出力モードを選択します。**

15 BLG M/S

SUB ↔ M/S ↔ MAIN

◎**SUB**：SUB（副）音声が左右チャンネルから出力されます。
◎**M/S**：MAIN（主）音声は左チャンネルからSUB（副）音声は右チャンネルから出力されます。
◎**MAIN**：MAIN（主）音声が左右チャンネルから出力されます。

■ **SUBおよびMAIN出力モードについて**
センタースピーカーを接続しMPEG2 AACモードを選択している場合、音声はセンタースピーカーから出力されます。

※これまでのシステムセットアップ内容を再設定したい場合は、エンターボタンまたはカーソル▼ボタンを押してください。

ご注意

- バイリンガルモードはAACソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効となります。二重音声の情報がないソースに対しては切り替えても無効です。

（10）システムセットアップ後の操作

★以上でシステムセットアップは終了です。
システムセットアップは一度設定をおこなったら、接続するAV機器やスピーカーを取り替えたり、スピーカーの配置を変えない限り、もう一度設定をおこなう必要はありません。

1 **システムセットアップボタンを押します。**

- 設定値が確定します。

※システムセットアップボタンを押すと、システムセットアップ中どこからでもシステムセットアップを終了することができます。
なお、システムセットアップ操作を終了するまでに変更した設定内容は確定されます。

SYSTEM SETUP / SETUP（リモコン）

9 操作のしかた

（1）入力ソースの再生のしかた

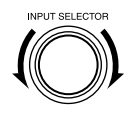
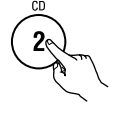
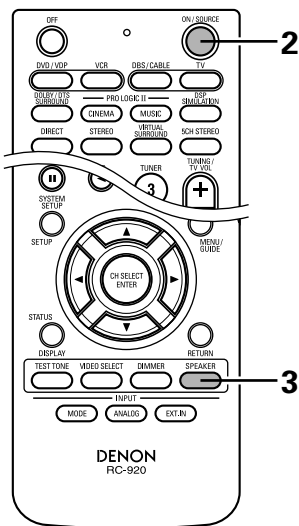
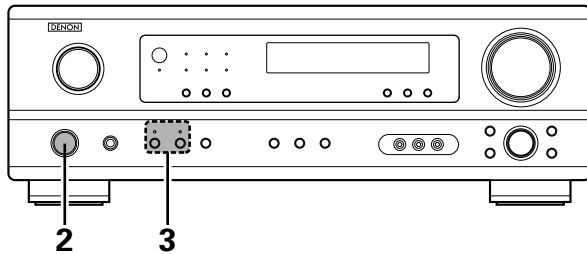
1 操作する前に

1	**「接続のしかた」（13〜19ページ）を参照して、接続に間違いがないことを確認します。**
2	**電源を入れます。** ON/STANDBY： ● ボタンを押すと電源が入り、約1秒後にディスプレイが点灯します。もう一度押すと電源が切れてスタンバイ状態になり、ディスプレイが消灯します。 ● 電源ボタンをONにしてから音声が出力されるまで、数秒間かかります。これは電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。
3	**フロントスピーカーを選択します。** ● スピーカーAまたはBボタンを押すとLEDが点灯し、音声が出力されます。 ※ リモコンのスピーカーボタンでスピーカーAまたはBの設定を変えることができます。

（本体）

（リモコン）

SPEAKER A B

（本体）

（リモコン）

2 入力ソースの再生
（入力ソース・入力モードの選択のしかた）

1	**再生したい入力ソースを選択します。** 【例】CD INPUT SELECTOR（本体）　CD 2（リモコン）
2	**入力モードを選択します。** ◎ **アナログモードの選択** アナログボタンを押して、アナログ入力に切り替えます。 ANALOG（本体）（リモコン） ◎ **外部入力モードの選択** 外部入力ボタンを押して、外部入力に切り替えます。 EXT. IN（本体）（リモコン） ◎ **AUTO、PCM、DTSモードの選択** 入力モード切り替えボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。 AUTO → PCM → DTS INPUT MODE（本体）　MODE（リモコン）

（次ページへ続きます。）

操作のしかた（つづき）

2 つづき

【入力モード選択機能について】

- 入力モードは、各入力ソースごとに選択ができます。また、選択された入力モードは、入力ソースごとに記憶されます。

AUTO（オートモード）

- 選択された入力ソースごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替えて再生するモードです。
- V. AUXの入力ソース以外でデジタル入力を設定した入力ソースについて選択することができます。
- デジタル信号の有無を検出し、デジタル入力端子に入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/PCMいずれかの方式で、自動的にデコードおよび再生をおこないます。
- デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力端子を選択します。
- ドルビーデジタル信号を再生する場合には、このモードを使用してください。

PCM（PCM信号再生専用モード）

- PCM信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。
- ノイズを発生する場合がありますので、PCM信号を再生する場合以外はこのモードを使用しないでください。

DTS（DTS信号再生専用モード）

- DTS信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）

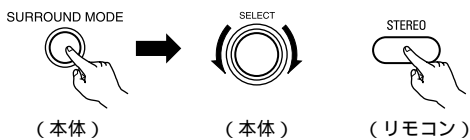
- アナログ入力端子に入力されている信号の再生をおこないます。

EXT.IN（外部デコーダー用入力端子選択モード）

- 外部デコーダー用入力端子に入力されている信号をサラウンド回路を通さずに再生します。

3 **再生モードを選択します。**

【例】ステレオ

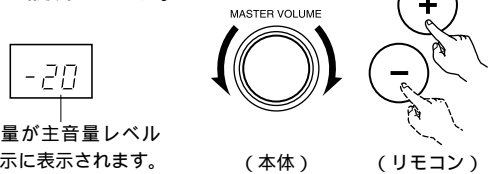
（本体）　（本体）　（リモコン）

※本体で操作するの場合は、サラウンドモードボタンを押してからセレクトつまみで操作してください。

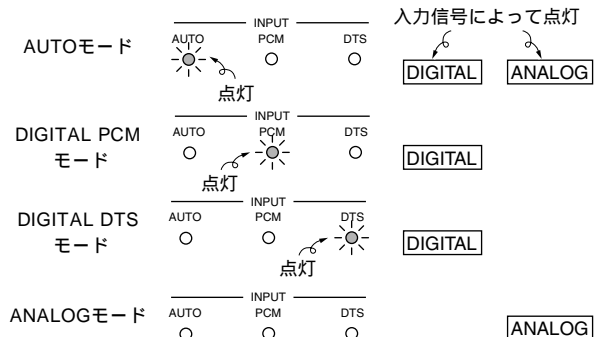
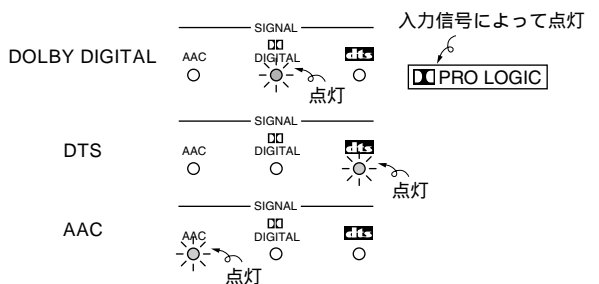
4 **選択した機器の再生をはじめます。**

※操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **音量を調節します。**

音量が主音量レベル表示に表示されます。

（本体）　（リモコン）

※音量は−70〜0〜18dBの範囲で1dBステップで調節できます。ただし、29ページに記載されている方法でチャンネルレベルを設定しているとき、どれか1つのチャンネルでも＋1dB以上に設定していると音量は18dBまで調整できません。（この場合、音量の最大調整範囲は“18dB−○○dB（例えば＋3dBに設定していた場合は最大値が15dBとなります。）”が最大値となります。）

◎入力モードの表示

◎入力信号の表示

※デジタル信号が正常に入力されるとそれぞれのLEDが点灯します。点灯しない場合はデジタル入力機器のセットアップ（25ページ）や接続が正しいか、または機器の電源が入っているかを確認してください。

ご注意

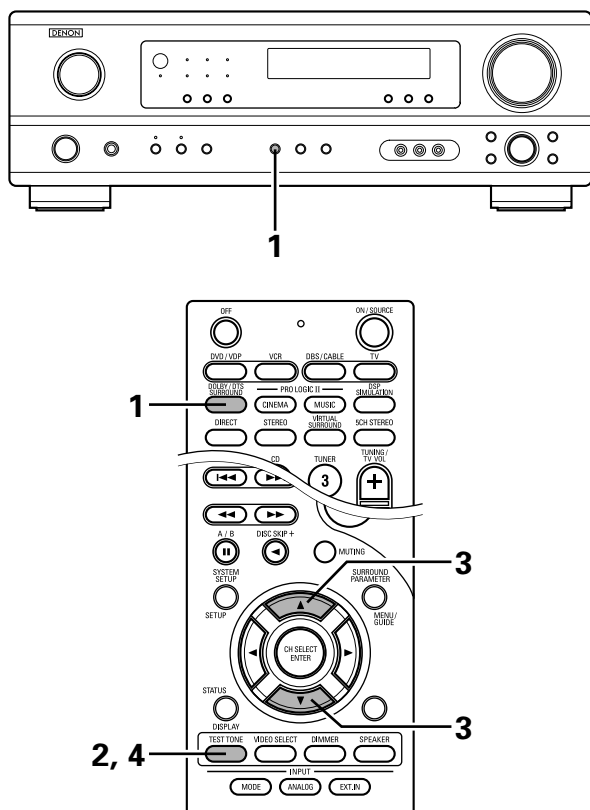
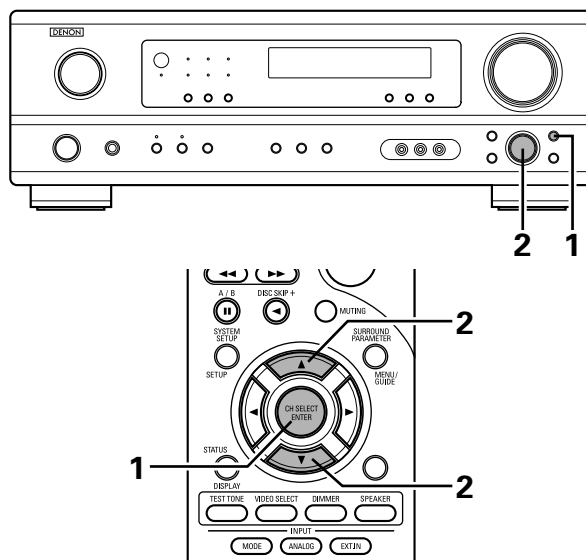
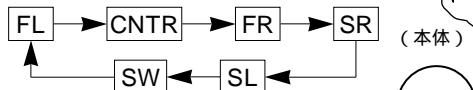
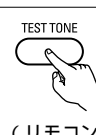
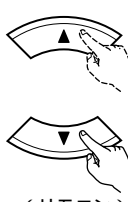
- オーディオ以外のデータの記録されたCD-ROMディスクを再生した場合は、デジタル入力表示LEDが点灯しますが、音声は聞けません。
- DTS方式で記録されたCDやLDをPCM（PCM信号再生専用モード）やANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）で再生すると、ノイズが出力されます。DTS方式で記録された信号を再生するときは、必ずデジタル（OPTICAL/COAXIAL）入力端子に接続し、『AUTO』（オートモード）または『DTS』（DTS信号再生専用モード）を選択してください。
- AUTO（オートモード）でDTSの再生をした場合、再生のはじめおよびサーチ中にノイズを発生する場合があります。この場合は、『DTS』（DTS信号再生専用モード）で再生してください。

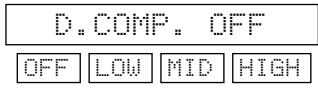
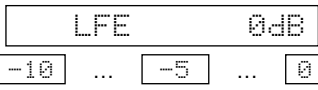
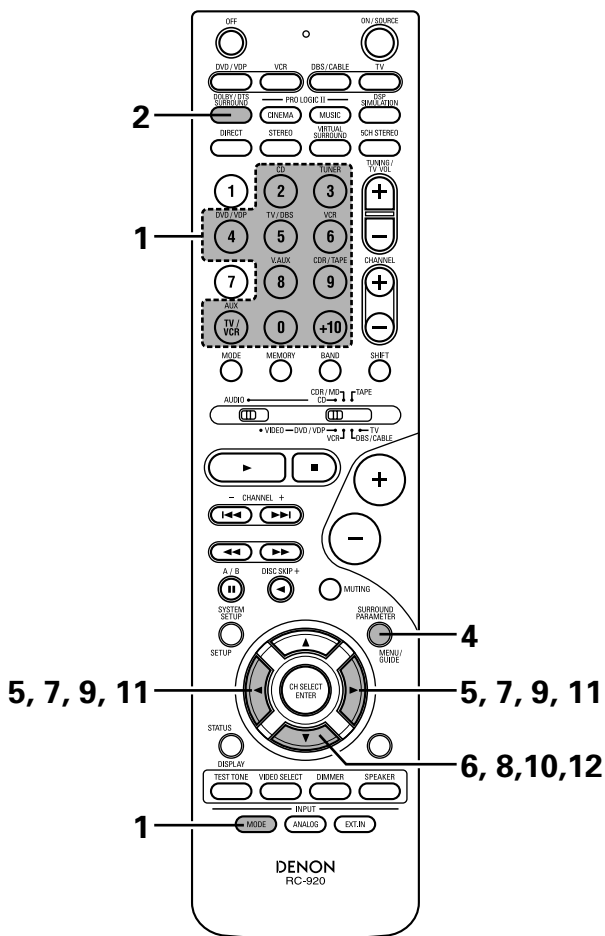
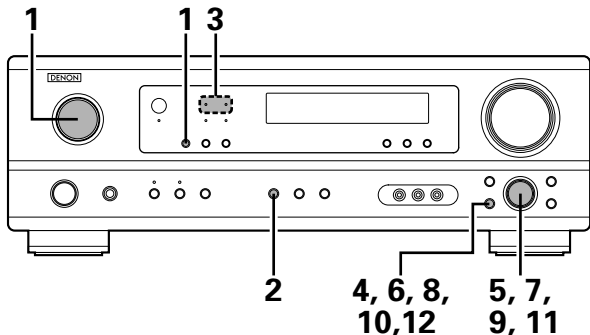
(2) サラウンド再生のしかた

1 サラウンド再生の前に

★サラウンド再生の前に、必ずテストトーンにより各スピーカーの再生レベルの調節をおこなってください。調節は下記の通りリモコンでおこないます。

★テストトーンによる調節はドルビーサラウンドモードとDTSサラウンドモード時のみ有効で、調節したレベルは自動的に記憶されます。

1	**ドルビープロロジックⅡモード、またはドルビーデジタルモードに設定します。** DOLBY / DTS SURROUND（本体）（リモコン）
2	**テストトーンボタンを押します。** TEST TONE（リモコン）
3	**テストトーンが各スピーカーより出力されますので、各スピーカーの音量が同じになるように調節します。** （リモコン）
4	**調節が終わったら、もう一度テストトーンボタンを押します。** TEST TONE（リモコン）

★テストトーンによる調節後は、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

1	**レベル調節したいスピーカーを選択します。** ●ボタンを押すたびに下記のようにチャンネルが切り替わります。 FL → CNTR → FR → SR → SL → SW → FL ※リモコンのモード切り替えスイッチ1が『AUDIO』に設定されていることを確認してください。 CH VOL（本体） CH SELECT ENTER（リモコン）
2	**選択したスピーカーの音量レベルを調節します。** ※音量レベルの調整は、本体のチャンネル音量調節ボタン（CH VOL）で選択（上記***1***の操作）してから調整してください。 ※各チャンネルの音量レベルは−12〜＋12dBの範囲で調整することができます。 ※サブウーハーチャンネルの音量レベルはOFFまたは−12〜＋12dBの範囲で調整することができます。 SELECT（本体）（リモコン）

ご注意

●サブウーハーチャンネルの音量レベルを『OFF』に設定したときは、システムセットアップの設定にかかわらず、フロントチャンネル（左/右）からLFEを含む低域信号が出力されます。
小型のフロントスピーカーを使用される場合は、低域再生能力を超え、歪みが発生することがありますので『OFF』に設定しないでください。

2 ドルビーデジタルモードおよびDTSサラウンドモード（デジタル入力のみ）

1 入力ソースを選択します。

デジタル入力での再生

① デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている入力ソースを選択します。（25ページ参照）

【例】DVD/VDP

INPUT SELECTOR（本体）　DVD / VDP（リモコン）

② 入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します。

INPUT MODE（本体）　MODE（リモコン）

2 ドルビー/DTSサラウンドモードを選択します。

DOLBY / DTS SURROUND（本体）　DOLBY / DTS SURROUND（リモコン）

3 DOLBY DIGITAL、dts マークが付いたプログラムソースを再生します。

- ドルビーデジタルソース再生中は、ドルビーデジタル表示LEDが点灯します。　DIGITAL 点灯
- DTSソース再生中は、DTS表示LEDが点灯します。　dts 点灯

4 ソースに合わせてサラウンドパラメーターを設定します。

※リモコンで操作する場合は、モード切り替えスイッチ1が『AUDIO』に設定されていることを確認してください。

SURROUND PARAMETER（本体）　SURROUND PARAMETER（リモコン）

5 CINEMA EQ.を設定します。

SELECT（本体）　（リモコン）

CINEMA EQ OFF

OFF　ON

SELECT または ◄ ←　→ ► または SELECT

6 D. COMP.の設定に切り替えます。

SURROUND PARAMETER（本体）　▼（リモコン）

（次ページへ続きます。）

7 **D. COMP.を設定します。**

※ DTS再生時には、このパラメーターは表示されません。

8 **LFEレベルの設定に切り替えます。**

9 **LFEのレベルを設定します。**

● LFEレベルは－10dB～0dBの範囲で1dB単位で調節できます。

10 **DEFAULTの設定に切り替えます。**

11 **DEFAULTの設定で『YES』を選択すると、工場出荷時の初期設定に戻ります。**

12 **DEFAULTの設定を確定して、CINEMA EQ.の設定に戻ります。**

※ サラウンドメーターの設定が終了したら、エンターボタンを押してください。設定中どこからでも終了することができます。
なお、サラウンドパラメーターの設定を終了するまでに変更した設定内容は確定されます。

サラウンドパラメーターについて①

CINEMA EQ.（シネマイコライザー）

● 映画ソフト再生中に会話部分が耳ざわりと感じるときに使用します。（高域の成分を下げます。ドルビープロロジック、ドルビーデジタルとDTSサラウンドモードのみ有効です。）

D.COMP.
（ダイナミックレンジコンプレッション）

● ドルビーデジタル音声のダイナミックレンジを調整するパラメーターです。深夜など、比較的小さな音量で再生する場合に『HIGH』側にすると音のピークを抑え、また小さな音を増幅することにより、ダイナミックレンジが狭くなり、聞き易くなります。『OFF』の場合は、機能オフとなります。

『OFF』↔『LOW』↔『MID』↔『HIGH』

ダイナミックレンジ　大 ←――――――→ 小

LFE（ローフリクエンシーエフェクト）

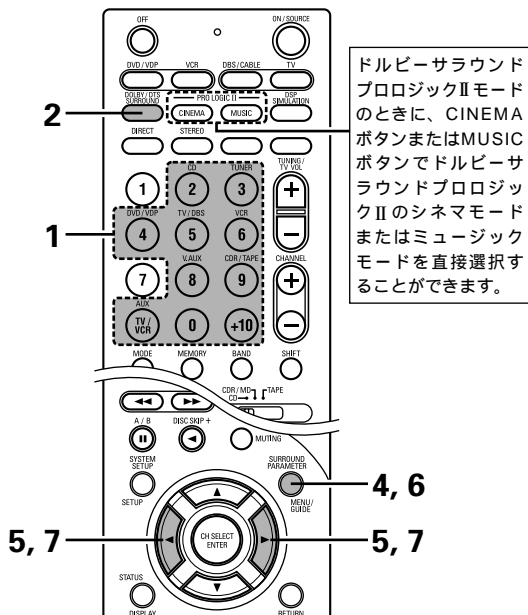
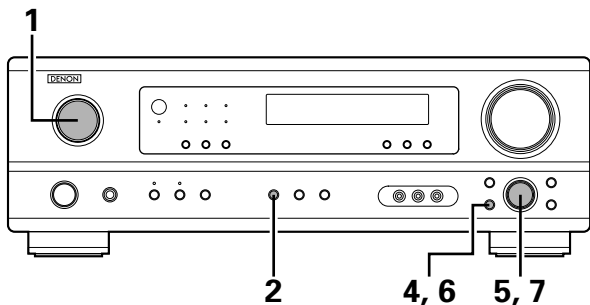
プログラムソースと可変範囲

1．ドルビーデジタル	－10dB～0dB
2．DTSサラウンド	－10dB～0dB

● ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生する場合は、正しいドルビーデジタル再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようお勧めします。
● DTSで録音された映画ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようお勧めします。
● DTSで録音された音楽ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを－10dBに設定するようお勧めします。

ご注意

● 『DEFAULT』を選択してカーソル◀ボタンを押すと、自動的に“ D.COMP. ”がオフに、LFEが初期値に、トーンが初期値に設定されます。
● ドルビーデジタルでエンコードされた信号は、ダイレクト、ドルビープロロジックII、ドルビーデジタル、ステレオおよびバーチャルモードのみ再生できます。その他のモードは、ドルビーデジタル信号を再生中においては動作しません。
● DTS信号はDTSサラウンド、ダイレクト、ステレオおよびバーチャルモードのみ再生できます。その他のモードはDTS信号を再生中においては動作しません。

3 ドルビーサラウンドプロロジックⅡモード

ドルビーサラウンドプロロジックⅡモードのときに、CINEMAボタンまたはMUSICボタンでドルビーサラウンドプロロジックⅡのシネマモードまたはミュージックモードを直接選択することができます。

1 **入力ソースを選択します。**

【例】DVD/VDP

INPUT SELECTOR（本体） DVD / VDP（リモコン）

2 **ドルビーサラウンドモードを選択します。**

- ドルビープロロジック表示が点灯します。

DOLBY / DTS SURROUND（本体）（リモコン）

DOLBY PLⅡcinema
↓
PLⅡ C DVD

PRO LOGIC ← 点灯

3 **DOLBY SURROUND マークの付いたプログラムソースを再生します。**

- 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

4 **サラウンドパラメーターモードを選択します。**

SURROUND PARAMETER（本体）（リモコン）

MODE cinema

※リモコンで操作する場合は、モード切り替えスイッチ1が『AUDIO』に設定されていることを確認してください。

5 **ソースに合わせて最適なモードを選択します。**

（本体） SELECT （リモコン）

MODE emulation / MODE cinema / MODE music

SELECT または ← → または SELECT

6 **選択したモードに応じて、サラウンドパラメーターを設定します。**

- ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

SURROUND PARAMETER（本体） SURROUND PARAMETER（リモコン）

- MODE EMULATION → CINEMA EQ → DEFAULT →
- MODE CINEMA → CINEMA EQ → DEFAULT →
- MODE MUSIC → PANORAMA → DIMENSION → CENTER WIDTH → DEFAULT →

7 **各サラウンドパラメーターを設定します。**

- **シネマイコライザー（CINEMA EQ.）の設定**

CINEMA EQ OFF

OFF / ON

SELECT または ← → または SELECT

- **パノラマ（PANORAMA）の設定**

PANORAMA OFF

OFF / ON

SELECT または ← → または SELECT

- **ディメンジョン（DIMENSION）の設定**

DIMENSION 3

0 … 3 … 6

SELECT または ← → または SELECT

- **センターウィズス（CENTER WIDTH）の設定**

CENTER WIDTH 0

0 … 4 … 7

SELECT または ← → または SELECT

- **デフォルト（DEFAULT）の設定**

DEFAULT Y/N

YES / Y/N / NO

SELECT または ← → または SELECT

※『Yes』を選択すると工場出荷時の初期設定に戻ります。

※サラウンドメーターの設定が終了したら、エンターボタンを押してください。設定中どこからでも終了することができます。

なお、サラウンドパラメーターの設定を終了するまでに変更した設定内容は確定されます。

CH SELECT ENTER（リモコン）

（次ページへ続きます。）

サラウンドパラメーターについて②

MODE CINEMA（モード シネマ）

● ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。
主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。

MODE MUSIC（モード ミュージック）

● ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然な、且つ広がり感のある音楽再生をおこないます。
音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽等）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、更に音場の調整を可能とする、各種のオプションパラメーターがあります。

PANORAMA（パノラマ）

フロントステレオの音場イメージを、サラウンドチャンネルまで拡大します。
ノーマル状態でステレオイメージが狭く、サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。

DIMENSION（ディメンジョン）

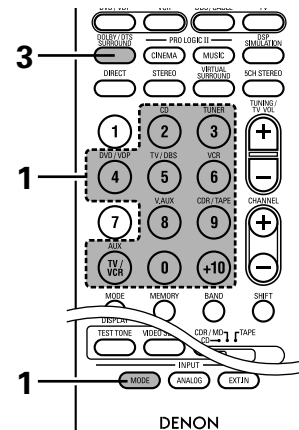
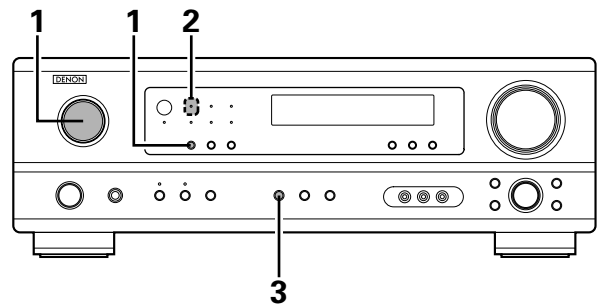
音場イメージの中心をフロント、またはサラウンド側にシフトします。
ソースの残響成分の大きさに拠らず、各チャンネルの再生バランスを調整することが可能です。音場イメージがフロント側、サラウンド側のいずれかに偏った場合に、それらを補正することができます。

CENTER WIDTH（センターウィズス）

センターの信号成分の再生方法を、センターチャンネルのみの再生からフロントチャンネルのみの再生の間で調整します。
セパレーションを重視したセンターチャンネル再生をおこなった場合、フロントチャンネルの音場について定位が明確化する反面、全体の音場イメージがセンターに集中したり、各チャンネル間の繋がりが希薄に感じられることがあります。このパラメーターを調整することにより、音場イメージの安定感を増加させ、自然な左右の広がりを得ることができます。

MODE EMULATION（モード エミュレーション）

● 従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して、録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。

4 AACサラウンドモード（デジタル入力のみ）

1
① **デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている入力ソース（BSデジタル放送受信機を接続している入力ファンクション）を選択します。（25ページ参照）**

【例】TV/DBS
INPUT SELECTOR（本体）　TV/DBS 5（リモコン）

② **入力モードを『AUTO』に設定します。**
INPUT MODE（本体）　MODE（リモコン）

2
AACのプログラムソースを再生します。
● AACソース再生中は、AAC表示LEDが点灯します。

3
5.1chの再生をおこなうときは、DOLBY/DTSサラウンドモードボタンを押します。
DOLBY / DTS SURROUND（本体）　DOLBY / DTS SURROUND（リモコン）
※ 5.1chのプログラムソースが入力されているとき、AACサラウンドモードは“MPEG2 AAC”と表示されます。
※ AACの2chのプログラムソースが入力されているときはPRO LOGIC IIモードになります。

AAC放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途切れることがあります。

二重音声の情報があるAACソースを再生する場合

音声出力内容を設定することができます。
設定のしかたは「システムセットアップのしかた」の「（9）Bilingualモードの設定」（26ページ）を参照してください。

(3) DSPサラウンドシミュレーションについて

★本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。7通り用意されたサラウンドモードを再生するソースに合わせて選択して、リスニングルームの状態によりパラメーターを調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。なお、各サラウンドモードはドルビーサラウンドプロロジックまたはドルビーデジタル録音されていないソースでもその効果をお楽しみいただけます。

1 各サラウンドモードとその特長

1	5CH STEREO（チャンネルステレオ）	サラウンド信号のLchにはフロントLchの信号、サラウンド信号のRchにはフロントRchの信号を出力し、センターchにはLchとRchの同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。
2	MONO MOVIE（モノムービー）（注1）	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しみたいときに選択します。
3	ROCK ARENA（ロックアリーナ）	反射音が回り込んでくるアリーナでのライブコンサートの雰囲気で楽しみたいときに使用します。
4	JAZZ CLUB（ジャズクラブ）	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスのような場所で、アーティストがすぐ近くで演奏するような雰囲気で楽しみたいときに選択します。
5	VIDEO GAME（ビデオゲーム）	ビデオゲームソースで楽しみたいときに使用します。
6	MATRIX（マトリクス）	ステレオ録音された音楽ソースを、広がり感を強調して楽しみたいときに選択します。サラウンドCHからは、入力された信号の差の成分（広がり感の成分）に遅延処理を加えた信号が出力されます。
7	VIRTUAL（バーチャル）	フロント2chだけのスピーカーを使用して、立体感のあるサラウンド再生を楽しみたいときに選択します。

※再生するソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
この場合には、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

（注1）：モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

ご注意

- サンプリング周波数が96kHzのPCM信号再生時は『DIRECT』、『STEREO』および『5CH STEREO』モードでお楽しみいただけます。他のサラウンドモードで再生中にこの信号が入力されると、サラウンドモードは自動的に『STEREO』モードに切り替わります。

パーソナルメモリープラスについて

本機には、入力ファンクションごとに選択されたサラウンドモードなどが自動的に記憶される『パーソナルメモリープラス』という機能を搭載しています。入力ファンクションを切り替えるたびに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

◎パーソナルメモリープラス機能で各入力ファンクションごとに自動的に記憶される内容

① サラウンドモード

② 入力モード選択機能

※サラウンドパラメーターおよびトーンコントロールの設定、各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

【サラウンドモードパラメーター 一覧表】

モード	各モードにおける信号の有無と制御の可否							
	チャンネル出力				ドルビーデジタル信号再生時	DTS信号再生時	PCM信号再生時(96k)	アナログ信号再生時
	FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R	SUB-WOOFER				
DIRECT	○	×	×	◎	○	○	○(○)	○
STEREO	○	×	×	◎	○	○	○(○)	○
EXTERNAL INPUT	○	◎	◎	◎	×	×	×	○
DOLBY PRO LOGICⅡ	○	◎	◎	◎	○※	×	○	○
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	○	×	×	×
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	×	○	×	×
5CH STEREO	○	◎	◎	◎	×	×	○(○)	○
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	×	×	○	○
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	×	×	○	○
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	×	×	○	○
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	×	×	○	○
MATRIX	○	◎	◎	◎	×	×	○	○
VIRTUAL	○	×	×	◎	○	○	○	○

○：信号有り、または制御可能　　※：2チャンネル時のみ
×：信号無し、または制御不可能
◎：スピーカーコンフィグレーションの設定により、ON/OFF可能
（注）ドルビーデジタル信号再生時：0dB、DTS信号再生時：－10dB

モード		各モードにおけるパラメーターの制御の可否										
		パラメーター（　）内は初期設定値										
		サラウンドパラメーター										
						プロロジックⅡ『MODE MUSIC』のみ				ドルビーデジタル信号		DTS信号
	TONE CONTROL	ROOM SIZE	EFFECT LEVEL	DELAY TIME	MODE	PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH	CINEMA EQ.	D. COMP.	LFE	LFE
DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
STEREO	○(0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○(0dB)
EXTERNAL INPUT	○(0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGICⅡ	○(0dB)	×	×	×	○(CINEMA)	○(OFF)	○(3)	○(0)	○(OFF)	○(OFF)	○(0dB)	－
DOLBY DIGITAL	○(0dB)	×	×	×	×	×	×	×	○(OFF)	○(OFF)	○(0dB)	－
DTS SURROUND	○(0dB)	×	×	×	×	×	×	×	○(OFF)	×	－	○(0dB)
5CH STEREO	○(0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	○(0dB)	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
JAZZ CLUB	○(0dB)	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
VIDEO GAME	○(0dB)	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MONO MOVIE	○(0dB)	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MATRIX	○(0dB)	×	×	○(30msec)	×	×	×	×	×	×	×	×
VIRTUAL	○(0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	○(OFF)	○(0dB)	○

○：制御可能　　×：制御不可能

2 DSPサラウンドシミュレーションのしかた

1 入力ソースを選択します。

【例】CDR/TAPE

2 入力ソースに合わせて、サラウンドモードを選択します。

本体で操作する場合

- つまみを回すたびに、下記のように切り替わります。

※ サラウンドパラメーターやチャンネル音量、トーンコントロールを調整中にサラウンドモードを選択したい場合は、サラウンドモードボタンを押してからセレクトつまみを操作してください。

リモコンで操作する場合

※ DSP SIMULATIONボタンは押すたびに、下記のように切り替わります。

3 プログラムソースを再生します。

- 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

4 サラウンドパラメーターモードにします。

※ リモコンのモード切り替えスイッチ1が『AUDIO』に設定されていることを確認してください。

5 選択したサラウンドモードに応じて、サラウンドパラメーターを設定します。

- ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

6 各サラウンドパラメーターを設定します。

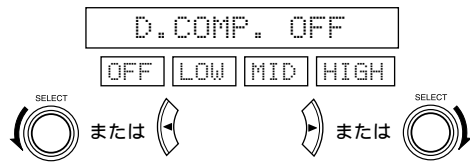
- **ルームサイズの設定**

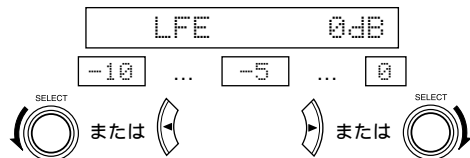
- **エフェクトレベルの設定**

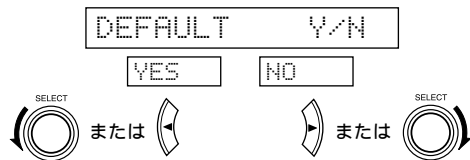
- **ディレイタイムの設定**

（次ページへ続きます。）

6 つづき

●D. COMP.の設定

※ **ドルビーデジタル再生時に、このパラメーターが表示されます。**

●LFEのレベルの設定

※ **ドルビーデジタルおよびDTS再生時に、このパラメーターが表示されます。**

●デフォルトの設定

※『YES』を選択すると工場出荷時の初期設定に戻ります。

※ サラウンドメーターの設定が終了したら、エンターボタンを押してください。設定中どこからでも終了することができます。
なお、サラウンドパラメーターの設定を終了するまでに変更した設定内容は確定されます。

CH SELECT ENTER（リモコン）

ご注意

- PCMデジタル信号またはアナログ信号を5CH STEREO、ROCK ARENA、JAZZ CLUB、VIDEO GAME、MONO MOVIE、MATRIXのサラウンドモードを再生中に入力信号がドルビーデジタルでエンコードされたデジタル信号に切り替わった場合には、強制的にドルビーサラウンドモードに切り替わります。
また、入力信号がDTS信号に切り替わった場合には、強制的にDTSサラウンドに切り替わります。

サラウンドパラメーターについて③

ROOM SIZE（ルームサイズ）

- 音場の大きさを設定します。
『SMALL』、『MED-S』、『MEDIUM』、『MED-L』、『LARGE』の5つのパラメーターがあります。
『SMALL』では小さな音場空間、『LARGE』では大きな音場空間を再現します。

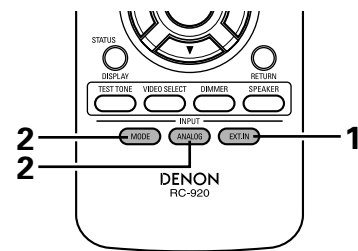
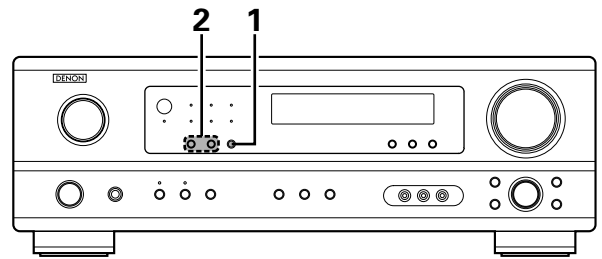
EFFECT LEVEL（エフェクトレベル）

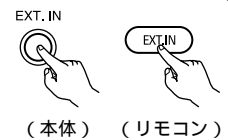
- サラウンドの効果の大きさを設定します。
『1』～『15』の15段階で設定できます。
音が歪んで変に感じられるときは、低いレベルに設定してください。

DELAY TIME（ディレイタイム）

- マトリクスモードに限り、『0ms』～『110ms』の範囲でサラウンドチャンネルのディレイタイムを設定できます。

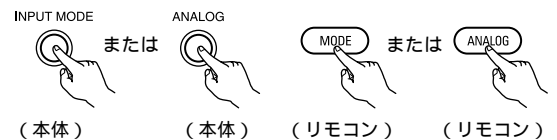
(4) 外部入力（EXT.IN）端子での再生について

1

入力モードを外部入力に設定します。

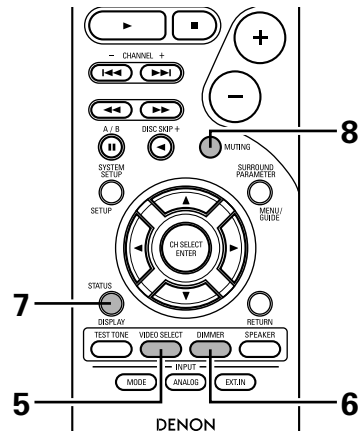
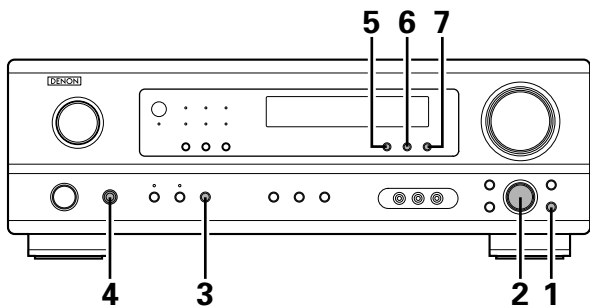
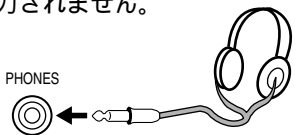
（本体）　（リモコン）

※ 設定後は選択されている端子のFL（フロント左）、FR（フロント右）、C（センター）、SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）に接続された入力信号をサラウンド回路を通さずに直接フロント（左/右）、センター、サラウンド（左/右）の各スピーカーシステムに出力します。
※ また、SW（サブウーハー）端子に入力された信号はプリアウトのサブウーハー端子に出力されます。

2

【外部入力モードの解除のしかた】
外部入力の設定を解除する場合は、入力モード切り替えボタンまたはアナログボタンを押して、再生したい入力モードに切り替えます。
（27、28ページ参照）

（本体）　（本体）　（リモコン）　（リモコン）

ご注意

- 入力モードを外部入力に設定している場合は、サラウンドモード（DIRECT、STEREO、DOLBY/DTS SURROUND、5CH STEREO、DSP SIMULATION）の設定はできません。
- 外部入力モード以外の再生モードでは、この端子に入力された信号は再生できません。また入力端子に接続されていないチャンネルからは出力できません。
- 外部入力モードは、どの入力ソースにおいても設定できます。映像と合わせてお楽しみいただく場合は、映像信号を接続した入力ソースを選択後、本モードに設定してください。

(5) その他の一般操作のしかた（再生したあとに）

■ 音質を調節するには

1 **トーンコントロールボタンを押します。**

● ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

TONE CONTROL（本体）

2 **セレクトつまみを回して、お好みに合わせて調節します。**

（本体）

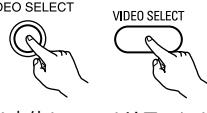
● 強くするとき：
＋12dBまで2dBステップで調整できます。

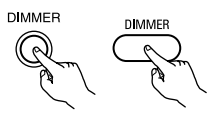
● 弱くするとき：
－12dBまで2dBステップで調整できます。

3 **音質を調節しない場合は、トーンデフィートオンモードに設定します。**

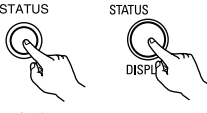
※ 信号が音質調整回路（BASS,TREBLE）を通らないため、より高音質でお楽しみいただけます。

（本体）

ご注意

● トーンディフィートを『ON』にするとトーンの調整はできませんので、トーンディフィートを『OFF』にしてから調整してください。

● 再生中に音が歪んで感じられるときはBASS、TREBLEを弱くしてお楽しみください。

■ ヘッドホンで音を聴くには

4 **ヘッドホンジャックにヘッドホン（別売り）を差し込みます。**

※ 差し込むと自動的にPRE OUT出力およびスピーカー出力がオフになりますので、スピーカーより音が出力されません。

■ 今聞いている音に好きな映像を組み合わせるには

5 **好きな映像が出るまで、ビデオセレクトボタンを押します。**

（本体）　（リモコン）

※ 解除するときは、次のいずれかの操作をおこないます。

• もう一度ビデオセレクトボタンを押して、“ SOURCE ” を選択します。

• または、入力ソースをビデオ系入力（DVD/VDP, TV/DBS, VCR, V. AUX）に切り替えます。

■ ディスプレイの明るさを調節するには

6 **ディマーボタンを押します。**

● 押すたびにディスプレイの明るさが3段階に変化し、最後には消灯することができます。

DIMMER　DIMMER

（本体）　（リモコン）

■ 今再生しているプログラムソースなどを確認するには

7 **ステータスボタンを押します。**

● 押すたびに、本体のディスプレイ上で現在のプログラムソースやサラウンドなどの各種設定が確認できます。

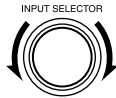
（本体）　（リモコン）

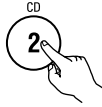
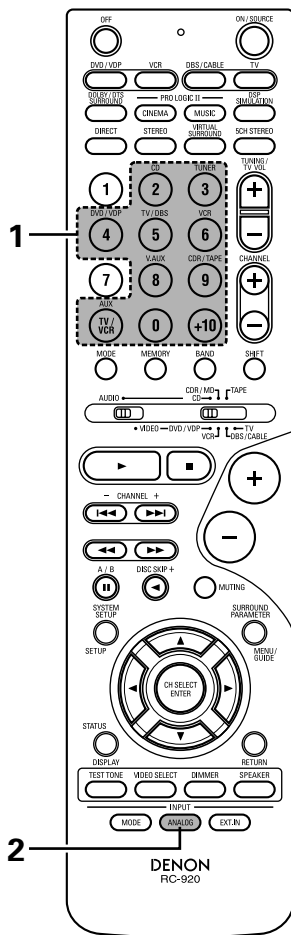
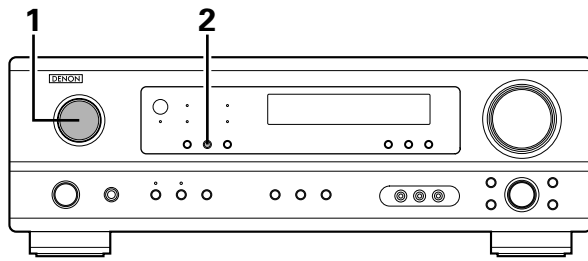
■ 一時的に音を消すには（ミューティング）

8 **ミューティングボタンを押します。**

※ 解除するときは、もう一度ミューティングボタンを押してください。

（リモコン）

ご注意

● リモコンの主音量調節ボタン（＋、－）を操作すると解除されます。

● 本機の電源をオフにした場合、設定が解除されます。

(6) 再生中のプログラムソースを録音 / 録画するには

1 **録音/録画したい入力ソースを選択します。**

【例】CD

2 **入力モードを選択します。**

◎ **アナログモードの選択**
アナログボタンを押して、アナログ入力に切り替えます。

3 **テープデッキ、ビデオデッキなどの録音機器を録音/録画状態にします。**

- 操作のしかたは、録音または録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

デジタル録音する場合

- 本機のOPTICAL OUT端子はCDレコーダーまたはMDレコーダーなどに接続し、デジタル録音することができます。デジタル録音したい機器の出力を本機のデジタル入力端子（OPTICAL/COAXIAL IN）に接続してください。
- デジタル録音をおこなう場合には、本機の入力モードを『AUTO』に設定してください。入力モードの設定がアナログの場合と、デジタル入力が割り当てられていない入力ソースを選択している場合には、デジタル出力にはCOAXIAL端子に接続されているデジタル信号が出力されます。

同時録音

入力ソース切り替えつまみ（ボタン）で、選択したソースの信号がCDR/TAPE端子とVCRのAUDIO OUT端子に同時に出力されます。テープデッキとビデオデッキの合わせて2台が全部接続され、録音モードに設定されていれば、同一のソースをすべてのデッキに同時に録音することができます。

※ CDR/TAPEとVCRのAUDIO OUT端子は、アナログ入力モードのみの再生になります。デジタル入力モードに切り替えることはできません。

10 リモコンによる他機器の操作のしかた

★付属のリモコン（RC-920）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のAV機器を操作することができます。また、他のリモコンのコントロール信号を記憶していますので、DENON製品以外のリモコン対応機器を操作することができます。

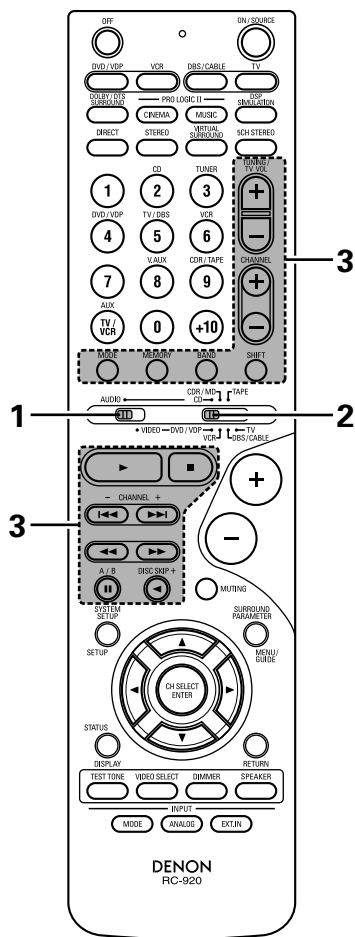
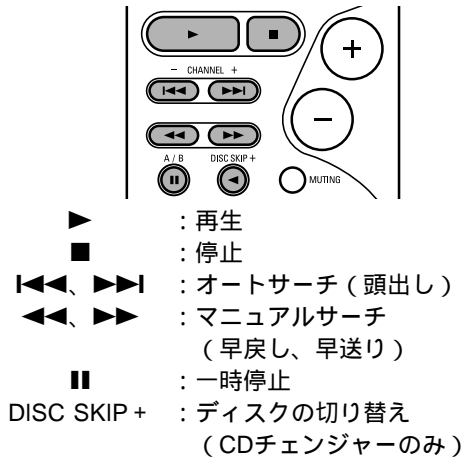
（1）DENON製オーディオ機器の操作のしかた

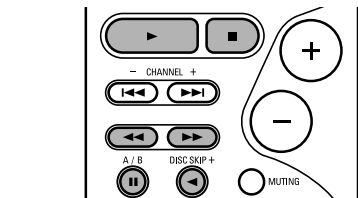
★操作する前に各機器の電源を入れてください。
★お手持ちの機器の形式、年式によって操作できないボタンもあります。

1 モードスイッチ1を『AUDIO』の位置にします。

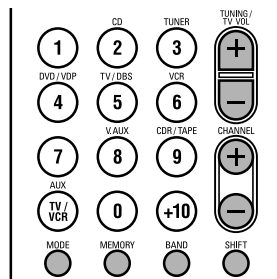
2 モードスイッチ2を操作したい機器（CD、CDR/MDまたはTAPE）の位置にします。

3 オーディオ機器を操作します。
●詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※機種によっては操作できないものがあります。

3 つづき

1. CDプレーヤー（CD）またはCDレコーダー、MDレコーダー（CDR/MD）のシステムボタン

▶	：再生
■	：停止
⏮、⏭	：オートサーチ（頭出し）
◀◀、▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
❚❚	：一時停止
DISC SKIP＋	：ディスクの切り替え（CDチェンジャーのみ）

2. テープデッキ（TAPE）のシステムボタン

▶	：正方向再生
■	：停止
◀◀	：巻き戻し
▶▶	：早送り
A / B	：A / Bデッキの切り替え
◀	：逆方向再生

3. チューナーのシステムボタン

※チューナーはモードスイッチ2が『CD』、『CDR/MD』または『TAPE』のどの位置でも操作することができます。

TUNING ＋、－	：チューニングのアップ/ダウン
CHANNEL ＋、－	：プリセットチャンネルのアップダウン
SHIFT	：プリセットチャンネル範囲の切り替え
BAND	：AM/FM受信バンドの切り替え
MEMORY	：プリセットメモリー
MODE	：AUTO/MONOの切り替え

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

(2) プリセットメモリーについて

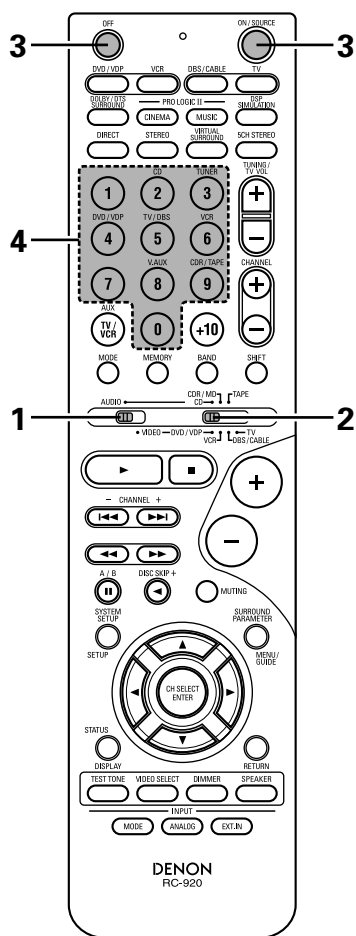
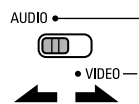
★お手持ちの機器のメーカーをプリセットメモリーすることにより、付属のリモコンで各社の機器を操作することができます。なお、**機種によっては操作できないものや正常に動作しないボタンがあります。**

■ 工場出荷時および初期化時のプリセットコードは以下の通りです。

CD ……………………………DENON
CDR/MD ………………DENON (CDR)
TAPE …………………………DENON
DVD/VDP ………………DENON (DVD)
VCR …………………………HITACHI
DBS/CABLE ……………ABC (CABLE)
TV ……………………………HITACHI

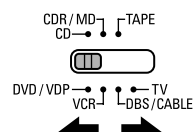
■ DENON製DVDプレーヤーのプリセットコード

DENON製DVDプレーヤー	プリセットコード番号
DVD-1000/1500/2800	111
DVD-800/1600/2000 DVD-2500/3300	014

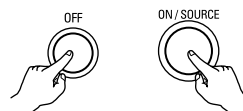
※工場出荷時の初期設定は『111』です。

1 **モードスイッチ1を『AUDIO』または『VIDEO』の位置にします。**

AUDIO
VIDEO

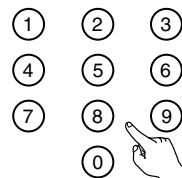
※ CD、CDR/MDおよびTAPEをプリセットメモリーする場合は、『AUDIO』の位置にしてください。
※ DVD/VDP、VCR、DBS/CABLEおよびTVをプリセットメモリーする場合は、『VIDEO』の位置にしてください。

2 **モードスイッチ2をメモリーしたい機器の位置にします。**

CDR / MD　TAPE　CD
DVD / VDP　VCR　TV　DBS/CABLE

3 **電源ON/SOURCEボタンとOFFボタンを同時に押します。**

● 送信表示LED（インジケーター）が点滅します。

OFF　ON / SOURCE

4 **リモコンコード表（42～46ページ）を参照して、メモリーする機器のメーカーに対応する数字（3桁）を入力します。**

1 2 3
4 5 6
7 8 9
0

5 **続けて他の機器のメモリーをおこなう場合は、操作*1*～*4*をくり返しおこなってください。**

ご注意

- プリセットメモリー中でも押したボタンの信号は送信されますので、メモリー中は誤動作防止のためリモコン受光部を覆ってください。
- リモコンコード表中のメーカー製品であっても形式・年式によっては使用できないものがあります。
- メーカーによってはリモコンコードを数種類持っています。動作しない場合は設定を変えて確認してください。
- **CDR/MD、DVD/VDPおよびDBS/CABLEは、各々どちらか一方の機器しかプリセットメモリーすることができません。**

【各メーカーのプリセットコードの組み合わせ】

※ *[ ]は、工場出荷時または初期化時のプリセットコードを示します。

DVD

Denon	014, ***[111]**
Aiwa	009
Hitachi	010
JVC	006, 011
Konka	012, 013
Magnavox	005
Mitsubishi	004
Panasonic	014
Philips	005, 015, 016, 017
Pioneer	003, 008
Sanyo	018
Sony	002, 019, 020
Toshiba	001, 021, 022, 024
Zenith	023

VDP

Denon	028, 029, 112
Magnavox	026
Mitsubishi	028
Panasonic	029, 030
Philips	026
Pioneer	028, 031
RCA	032
Sony	033, 034, 035, 036

VCR

Admiral	081
Aiko	095
Aiwa	009
Akai	026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
Amstrad	009
ASA	042
Asha	087
Audio Dynamic	005, 085
Audiovox	088
Beaumark	087
Broksonic	086, 093
Calix	088
Candle	006, 087, 088, 089, 090
Canon	049, 057
Capehart	025, 055, 056, 071
Carver	015
CCE	095
Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
Craig	007, 087, 088, 091, 115
Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 090, 092
Cybernex	087
Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
Daytron	025, 055
DBX	005, 085
Dumont	053
Dynatech	009
Electrohome	001, 088, 097
Electrophonic	088
Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
Fisher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 098, 099, 111
GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
Go Video	047, 048
Goldstar	000, 006, 012, 062, 088
Gradiente	094
Grundig	042
Harley Davidson	094
Harman Kardon	040, 062
Hi-Q	091
Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, ***[108]**, 109, 110, 111
JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
Jensen	013, 026
JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
Kodak	088
Lloyd	009, 094
LXI	088
Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
Magnin	087
Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
Marta	088
MEI	049
Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
MGA	001, 017, 027, 041, 097
MGN Technology	087
Midland	011
Minolta	013, 023
Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 039, 040, 041, 045, 097
Motorola	081
Montgomery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117

(次ページへ続きます。)

MTC	009, 087, 094
Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
NAD	038
NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
Nikko	088
Noblex	087
Optimus	081, 088
Optonica	021
Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
Perdio	009
Pentax	009, 013, 023, 058, 090
Philco	015, 016, 049
Philips	015, 021, 042, 049, 105
Pilot	088
Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
Portland	025, 055, 090
Proscan	063, 080
Pulsar	060
Quartz	033
Quasar	034, 035, 049
Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115
Radix	088
Randex	088
RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098
Ricoh	055
Salora	041
Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
Sanky	081
Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
SBR	042
Scott	017, 020, 086, 089, 093, 117
Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
Sentra	055
Sharp	001, 002, 021, 097
Shogun	087
Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
STS	023
Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
Symphonic	009, 094
Tandy	009
Tashiko	009, 088
Tatung	004, 026, 030
Teac	004, 009, 026, 094
Technics	024, 049
Teknika	009, 010, 022, 049, 088, 094
TMK	087, 092
Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
Totevision	007, 087, 088
Unirech	087
Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
Victor	005, 045, 046, 085
Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
Videosonic	007, 087
Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
XR-1000	094
Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Zenith	060, 078, 079

TV

Admiral	045, 121
Adventura	122
Aiko	054
Akai	016, 027, 046
Alleron	062
A-Mark	007
Amtron	061
Anam	006, 007, 036
Anam National	061, 147
AOC	003, 007, 033, 038, 039, 047, 048, 049, 133
Archer	007
Audiovox	007, 061
Bauer	155
Belcor	047
Bell & Howell	045, 118
Bradford	061
Brockwood	003, 047
Candle	003, 030, 031, 032, 038, 047, 049, 050, 122
Capehart	003
Celebrity	046
Circuit City	003
Citizen	029, 030, 031, 032, 034, 038, 047, 049, 050, 054, 061, 095, 122, 123
Concerto	031, 047, 049
Colortyme	003, 047, 049, 135
Contec	013, 051, 052, 061
Cony	051, 052, 061
Craig	004, 061
Crown	029
Curtis Mathes	029, 034, 038, 044, 047, 049, 053, 095, 118

(次ページへ続きます。)

Daewoo	027, 029, 039, 048, 049, 054, 055, 106, 107, 137
Daytron	003, 049
Dimensia	044
Dixi	007, 015, 027
Electroband	046
Electrohome	029, 056, 057, 058, 147
Elta	027
Emerson	029, 051, 059, 060, 061, 062, 118, 123, 124, 139, 148
Envision	038
Etron	027
Fisher	014, 021, 063, 064, 065, 118
Formenti	155
Fortress	012
Fujitsu	004, 062
Funai	004, 062
Futuretech	004
GE	020, 036, 037, 040, 044, 058, 066, 088, 119, 120, 125, 147
Goldstar	000, 015, 029, 031, 039, 048, 051, 056, 057, 067, 068, 069, 116
Grundy	062
Hitachi	029, 031, 051, 052, 070, 111, 112, 113, 124, ***[134]**
Hitachi Pay TV	151
Infinity	017, 071
Janeil	122
JBL	017, 071
JC Penny	020, 034, 039, 040, 041, 048, 050, 058, 066, 069, 076, 088, 090, 095, 125, 136, 159
JCB	046
JVC	019, 051, 052, 072, 073, 091, 117, 126
Kawasho	018, 046
Kenwood	038, 056, 057
Kloss	010, 032
Kloss Novabeam	005, 122, 127, 131
KTV	074, 123
Loewe	071
Logik	144
Luxman	031
LXI	008, 014, 017, 024, 040, 044, 063, 071, 075, 076, 077, 118, 125
Magnavox	005, 010, 017, 030, 033, 038, 050, 056, 071, 078, 079, 085, 089, 108, 109, 110, 127, 131, 132, 145
Marantz	015, 017, 071, 080
Matsui	027
Memorex	014, 027, 045, 083, 118, 144
MGA	001, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 083
Midland	125
Minutz	066
Mitsubishi	001, 016, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 082, 083, 105
Montgomery Ward	011, 020, 144, 146
Motorola	121, 147
MTC	031, 034, 039, 048, 095
NAD	008, 075, 076, 128
National	002, 036, 061, 147
National Quenties	002
NEC	031, 038, 039, 048, 057, 084, 086, 135, 147
Nikko	054
NTC	054
Optimus	128
Optonica	011, 012, 093, 121
Orion	004, 139
Panasonic	002, 017, 036, 037, 071, 141, 143, 147
Philco	005, 010, 030, 050, 051, 056, 079, 085, 127, 131, 132, 145, 147
Philips	005, 015, 017, 050, 051, 056, 078, 087, 088, 089, 131, 132, 147
Pioneer	124, 128, 142
Portland	054
Price Club	095
Proscan	040, 044, 125
Proton	035, 051, 092, 129
Pulsar	042
Quasar	036, 037, 074, 141
Radio Shack	011, 044, 063, 093, 118
RCA	040, 044, 125, 130, 137, 151, 152
Realistic	014, 063, 093, 118
Saisho	027
Samsung	003, 034, 053, 055, 057, 094, 136, 153
Sansui	139
Sanyo	013, 014, 021, 022, 063, 064, 081, 096
SBR	015
Schneider	015
Scott	062
Sears	008, 014, 021, 022, 023, 024, 025, 040, 052, 057, 062, 063, 064, 065, 073, 075, 076, 097, 098, 125, 159
Sharp	011, 012, 013, 026, 093, 099, 100, 104, 121
Siemens	013
Signature	045, 144
Simpson	050

(次ページへ続きます。)

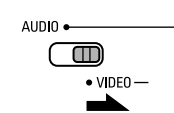
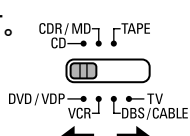
Sony	043, 046, 138, 146, 150
Soundesign	030, 050, 062
Spectricon	007, 033
Squareview	004
Supre-Macy	032, 122
Supreme	046
Sylvania	005, 010, 017, 030, 078, 079, 085, 089, 101, 127, 131, 132, 145, 155
Symphonic	004, 148
Tandy	012, 121
Tatung	036, 124
Technics	037
Teknika	001, 030, 032, 034, 052, 054, 078, 083, 095, 144, 156, 157
Tera	035, 129
Toshiba	008, 014, 034, 063, 075, 076, 095, 097, 136, 158, 159
Universal	020, 066, 088
Victor	019, 073, 126
Video Concepts	016
Viking	032, 122
Wards	005, 045, 066, 078, 085, 088, 089, 093, 102, 103, 131, 132, 148
Zenith	042, 114, 115, 140, 144, 149
Zonda	007

CABLE

ABC	006, ***[007]**, 008, 009
Archer	010, 011
Century	011
Citizen	011
Colour Voice	012, 013
Comtronic	014
Eastern	015
Garrard	011
Gemini	030, 033, 034
General Instrument	030, 031, 032
Hytex	006
Jasco	011
Jerrold	009, 016, 017, 026, 032
Magnavox	018
Movie Time	019
NSC	019
Oak	000, 006, 020
Panasonic	001, 005
Philips	011, 012, 013, 018, 021
Pioneer	002, 003, 022
RCA	029
Regency	015
Samsung	014, 023
Scientific Atlanta	004, 024, 025
Signal	014
SL Marx	014
Starcom	009
Stargate	014
Teleview	014
Tocom	007, 016
TV86	019
Unika	011
United Artists	006
Universal	010, 011
Viewstar	018, 019
Zenith	027, 028

DBS (SATELLITE)

Alphastar	054
Chaparral	035, 036
Dishnet	053
Drake	037, 038
Echostar Dish	062, 066
GE	048, 055, 056
General Instruments	039, 040, 041
Grundig	070, 071, 072, 073
Hitachi	058, 059
Hughes Network	052, 063, 064, 065, 069
JVC	057
Kathrein	074, 075, 076, 083
Magnavox	060
Nokia	080, 084, 085, 086
Philips	060
Primestar	051
Proscan	048, 055, 056
RCA	048, 055, 056, 068
Realistic	042
Sierra Ⅰ	036
Sierra Ⅱ	036
Sierra Ⅲ	036
Sony	049, 067
STS1	043
STS2	044
STS3	045
SRS4	046
Technisat	077, 078, 079, 081, 082
Toshiba	047, 050
Uniden	061

CD

Denon	***[111]**
Aiwa	001, 035, 043
Burmster	002
Carver	003, 035
Emerson	004, 005, 006, 007
Fisher	003, 008, 009, 010
JVC	018, 019

（次ページへ続きます。）

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

Kenwood	011, 012, 013, 014, 017
Magnavox	006, 015, 035
Marantz	016, 028, 035
MCS	016, 024
Onkyo	025, 027
Optimus	017, 020, 021, 022, 023
Philips	014, 032, 033, 035
Pioneer	006, 022, 030
Sears	006
Sony	023, 031
Teac	002, 009, 028
Technics	016, 029, 036
Wards	035, 037
Yamaha	038, 039, 040, 041
Zenith	042

CDR

Denon	***[111]**, 112
Philips	112

MD

Denon	113
Kenwood	003, 004
Onkyo	007
Sharp	005
Sony	006

TAPE

Denon	***[111]**
Aiwa	001, 002
Carver	002
Harman/Kardon	002, 003
JVC	004, 005
Kenwood	006
Magnavox	002
Marantz	002
Onkyo	016, 018
Optimus	007, 008
Panasonic	012
Philips	002
Pioneer	007, 008, 009
Sony	013, 014, 015
Technics	012
Victor	004
Wards	007
Yamaha	010, 011

(3) プリセットメモリーした ビデオ機器の操作のしかた

1	**モードスイッチ1を『VIDEO』の位置にします。** AUDIO VIDEO
2	**モードスイッチ2を操作したい機器（DVD/VDP、VCR、DBS/CABLEまたはTV）の位置にします。** CDR / MD CD TAPE DVD / VDP VCR TV DBS/CABLE
3	**ビデオ機器を操作します。** ● 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。 ※ 機種によっては操作できないものがあります。

ご注意

- オーディオ機器（CD、CDR、MDおよびTAPE）はDENON製オーディオ機器と同じボタンで操作することができます。
- テレビはモードスイッチ2が『DVD/VDP』、『VCR』または『TV』のどの位置でも操作することができます。

（次ページへ続きます。）

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

3
つづき

1. デジタルビデオディスクプレーヤー（DVD）の システムボタン

POWER	：電源のON/OFF
0～9、＋10	：10キー
►	：再生
■	：停止
⏮、⏭	：オートサーチ（頭出し）
◄◄、►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
⏸	：一時停止
DISC SKIP +	：ディスクの切り替え（DVDチェンジャーのみ）
SET UP	：DVDのセットアップ
MENU/GUIDE	：メニューの呼び出し
DISPLAY	：ディスプレイの切り替え
RETURN	：メニューのリターン
▲、▼、◄、►	：カーソル上、下、左、右
ENTER	：設定の確定

ご注意

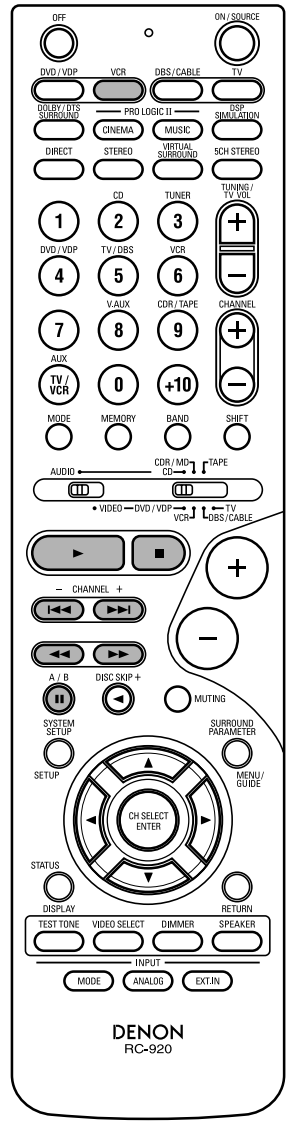
- DVDのリモコンボタンはメーカーによって機能名が異なる場合がありますので、各機器のリモコンの動作と照らし合わせてご使用ください。

2. ビデオディスクプレーヤー（VDP）の システムボタン

POWER	：電源のON/OFF
0～9、＋10	：10キー
►	：再生
■	：停止
⏮、⏭	：オートサーチ（頭出し）
◄◄、►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
⏸	：一時停止

（次ページへ続きます。）

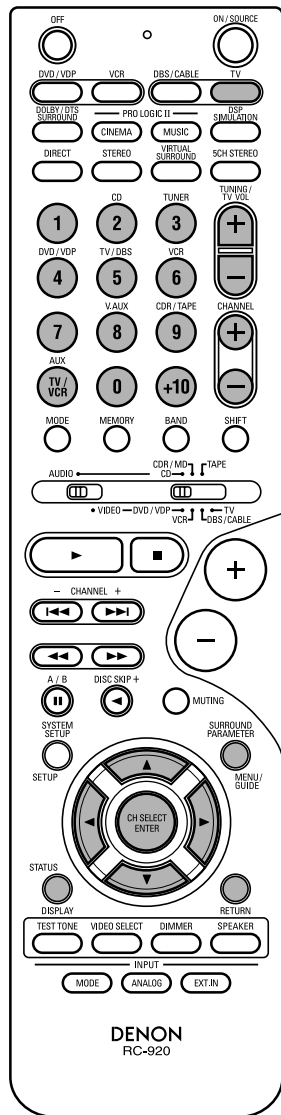
リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

3. ビデオデッキ（VCR）のシステムボタン

POWER	：電源のON/OFF
CHANNEL +、ー	：チャンネルの切り替え
►	：再生
■	：停止
◄◄、►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
❚❚	：一時停止

4. 衛星放送（DBS）チューナーまたはケーブル（CABLE）のシステムボタン

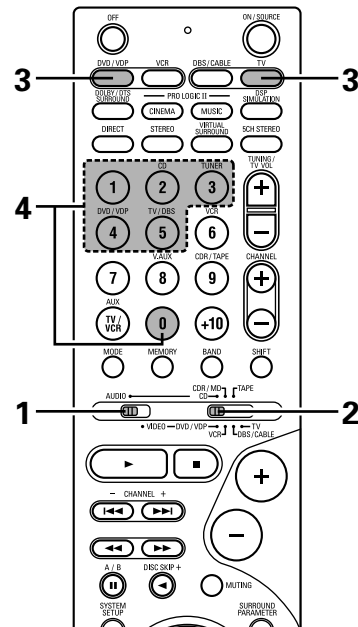
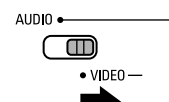
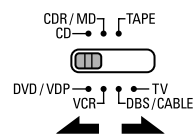
POWER	：電源のON/OFF
0〜9、＋10	：チャンネル
TV/VCR	：テレビ/ビデオの切り替え
TV VOL ＋、ー	：音量のアップ/ダウン
CHANNEL ＋、ー	：チャンネルの切り替え
MENU/GUIDE	：メニューの呼び出し
▲、▼、◄、►	：カーソル上、下、左、右
ENTER	：設定の確定
DISPLAY	：ディスプレイの切り替え
RETURN	：メニューのリターン

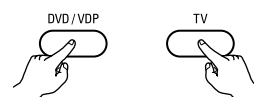
3 つづき

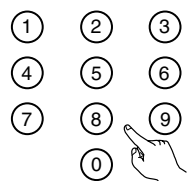
5. モニターテレビ（TV）のシステムボタン

POWER	：電源のON/OFF
0〜9、＋10	：チャンネル
TV/VCR	：テレビ/ビデオの切り替え
TV VOL ＋、ー	：音量のアップ/ダウン
CHANNEL ＋、ー	：チャンネルの切り替え
MENU/GUIDE	：メニューの呼び出し
▲、▼、◀、▶	：カーソル上、下、左、右
ENTER	：設定の確定
DISPLAY	：ディスプレイの切り替え
RETURN	：メニューのリターン

(4) パンチスルーについて

★パンチスルーはモードスイッチ2がDBS/CABLEまたはTVの位置でもCD、CDR/MD、TAPE、DVD/VDPまたはVCRの再生（▶）、停止（■）、一時停止（❚❚）、早送り（▶▶）巻き戻し（◀◀）およびオートサーチ（|◀◀　▶▶|）ボタンを操作することができる機能です。

※工場出荷時の初期設定は『設定なし』です。

1 **モードスイッチ1を『VIDEO』の位置にします。**

2 **モードスイッチ2をパンチスルーさせたい機器（DBS/CABLEまたはTV）の位置にします。**

3 **DVD/VDPの電源ボタンとTVの電源ボタンを同時に押します。**

● 送信表示LED（インジケーター）が点滅します。

4 **下表を参照して、パンチスルーしたい機器に対応する番号を入力します。**

パンチスルーしたい機器	番号
CD	1
TAPE	2
CDR/MD	3
DVD/VDP	4
VCR	5
設定なし	0

11 サラウンドについて［解説］

★本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

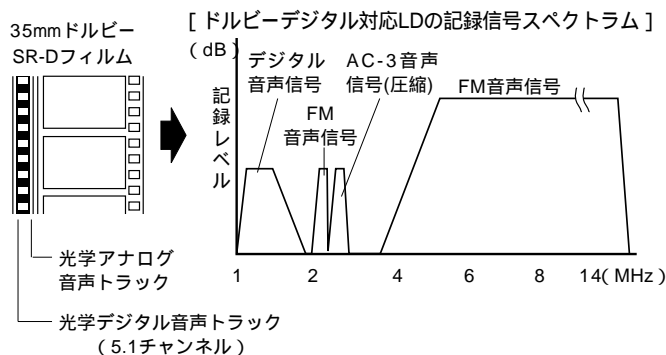
(1) ドルビーサラウンドについて

1 ドルビーデジタル（ドルビーサラウンドAC-3）

◎ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch（フロント左（FL)、フロント右（FR)、センター（C)）とサラウンド2ch（サラウンド左（SL)、サラウンド右（SR)）に加え、低域（〜120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、更にモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応ができます。

◎また、各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。

◎この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル）』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することができるようになりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

【SR-Dとドルビーデジタルの関係】

【ドルビーデジタルとドルビープロロジック】

家庭用サラウンド方式比較	ドルビー・デジタル	ドルビー・プロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L, R, C, SL, SR, SW	L,R,C,S（SWは推奨）
音声処理	デジタル・ディスクリート処理 ドルビーデジタル（AC-3） エンコード、デコード	アナログ・マトリックス処理 ドルビー・サラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

■ドルビーデジタル対応メディアとその再生方法

ドルビーデジタル対応マーク： DOLBY DIGITAL または DOLBY SURROUND AC-3 DIGITAL

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と合わせて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力 専用同軸端子 **(注2)**	入力モードを『AUTO』に設定します。(27、28ページ参照)
DVD	光または同軸デジタル出力 (PCMと共通) **(注3)**	入力モードを『AUTO』に設定します。(27、28ページ参照)
その他 (衛星放送、CATVなど)	光または同軸デジタル出力 (PCMと共通)	入力モードを『AUTO』に設定します。(27、28ページ参照)

注2：デジタル入力端子にドルビーデジタルRF（AC-3 RF）出力端子を接続するときは、市販のアダプターを使用してください。(アダプターの取扱説明書を参照してください。)

注3：DVDのデジタル出力には、ドルビーデジタル信号の出力方法を『ビットストリーム』と『PCM（に変換)』とで切り替える機能を持つものがあります。本機でドルビーデジタルサラウンド再生をおこなう場合は、これらのモードを『ビットストリーム』に切り替えてください。またデジタル出力が『ビットストリーム/PCM兼用』と『PCM専用』に分かれている場合があります。この場合は『ビットストリーム/PCM兼用』端子を本機に接続してください。

サラウンドについて［解説］（つづき）

2 ドルビープロロジックII

◎ ドルビープロロジックII は、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。

◎ ドルビーサラウンド録音されたソース（＊）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。

◎ サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20～20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。

◎ 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（32、33ページ参照）

＊：“ **ドルビーサラウンド録音されたソース** ”とは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックデコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- DVDのドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。

①PCMステレオ2ch信号
②ドルビーデジタル2ch信号

いずれの信号が本機に入力されても『DOLBY/DTS SURROUND』モードを選択すると、サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジックII』となります。

■ **ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。**

ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

（2）DTS デジタルサラウンドについて

◎ DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

◎ 再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。

◎ DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生はフィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録できるため、他のフォーマットと同様の取り扱いができます。

◎ この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、CDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いはなく、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

■ DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク： dts DIGITAL SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と合わせて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**（注5）**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（27、28ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**（注4）**
LD（VDP）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**（注5）**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（27、28ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**（注4）**
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**（注6）**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（27、28ページ参照）。

注4 ：CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず『AUTO』または『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『ANALOG』および『PCM』モードへは切り替えないでください。DVDプレーヤーやLD/DVDコンパチプレーヤーでCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。

注5 ：CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発声することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまず主音量調節つまみを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTSインジケーター（30ページ参照）が点灯することを確認してから主音量調節つまみを上げるようにしてください。

注6 ：DVDのDTSメディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちのDVDプレーヤーがDTS対応であるかはDVDプレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

(3）AACについて

◎ MPEG2-AAC (Advanced Audio Coding) はMPEG (Moving Picture Experts Group) が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。

◎ その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3 (MPEG Layer-3)など、従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。

◎ その特長を生かしてポータブルオーディオなどへの応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。

◎ MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

【MPEG2-AACのスペック（概要）】
- アルゴリズム　：MAINプロファイル
LC(Low Complexity)プロファイル
SSR(Scalable Sampling Rate)プロファイル
- サンプリング周波数　：8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数　：最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能　：LFE(Low Frequency Effect)サポート
マルチリンガル(複数言語)サポート

この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

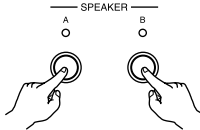
※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1,2,3等がありますが、それらとAACの間に互換性はありません。
本機はその中でさきに述べたAACの再生に対応します。

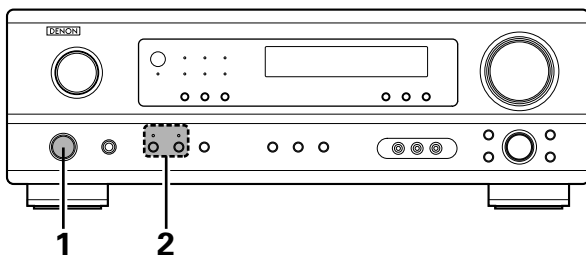
◎ 以下がAACに関する米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

12 ラストファンクションメモリーについて

★本機には電源をオフにする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源をオンにすると、電源をオフにする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。

★また、本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源がオフになったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種の設定状態をバックアップして約1週間保持することができます。

13 マイコンの初期化について

★本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体やリモコンのボタンで操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。

ご注意

- 操作***3***の状態にならない場合は、もう一度操作***1***からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンの設定状態がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。（21ページ参照）

1	**本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜きます。** ON / STANDBY
2	**スピーカーAボタンとBボタンを同時に押しながら、電源コードをコンセントに差し込みます。** SPEAKER A B
3	**ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅するのを確認後、2つのボタンから指を離します。** ● マイコンが初期化されます。

14 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。

詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

15 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

■ 各接続は正しいですか
■ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
■ スピーカーや接続した機器は正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
電源を入れてもディスプレイが点灯せず、音も出ない。	● 電源コードの差し込みが不完全である。	● 本体および電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	13
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	● スピーカーコードの接続が不完全である。 ● 入力ソースの選択が不適当である。 ● 主音量調節つまみが絞ってある。 ● ミューティングがかかっている。 ● デジタル信号が入力されていない。	● しっかり接続してください。 ● 正しいソースに切り替えてください。 ● 適当な位置まで回してください。 ● ミューティングを解除してください。 ● デジタル信号の入力ソースを正しく選択してください。	16、17 27、28 28 38 25
モニターが映らない。	● 本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。 ● モニターTVの入力設定が違う。 ● 各機器の映像信号の接続が統一されていない。	● 接続が正しいか確認してください。 ● TVの入力切り替えを映像入力を接続した端子に設定してください。 ● コンポジットかS端子のいずれかに統一してください。	14、15 ー 14、15
dts音声が出ない。	● DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。 ● DVDプレーヤーがdts対応になっていない。 ● 本機の入力設定がアナログになっている。	● DVDプレーヤーの初期設定をしてください。 ● dts対応のプレーヤーを使用してください。 ● AUTOまたはdtsに設定してください。	ー ー 27、28
DVDからVCRにダビングできない。	● ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	● コピーはできません。	ー
サブウーハーが鳴らない。	● サブウーハーの電源が入っていない。 ● サブウーハーの初期設定がNOになっている。 ● サブウーハーの出力が接続されていない。	● サブウーハーの電源を入れてください。 ● 設定をYESにしてください。 ● 正しく接続してください。	ー 22 17
テストトーンが出ない。	● サラウンドモードがドルビーサラウンド以外のモードになっている。	● ドルビーサラウンドにしてください。	29
リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。 ● リモコンの距離が離れ過ぎている。 ● 本体とリモコンの間に障害物がある。 ● 操作したいボタン以外のボタンを押している。 ● 乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	● 新しい乾電池と交換してください。 ● 近づいて操作してください。 ● 障害物を取り除いてください。 ● 操作したいボタンを押してください。 ● 乾電池を正しくセットしてください。	8 8 8 19 8
AACのLEDが点灯しない。	● BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	● デジタル接続にしてください。	13

ご注意

● サブウーハーを接続し、バーチャルサラウンドにてお楽しみの場合、工場出荷時の初期設定（フロントスピーカーの設定が『LARGE』、Subwoofer Modeの設定が『NORM』）のときは、サブウーハーチャンネルから再生される信号はLFE（DOLBY DIGITALまたはDTS信号再生時のみ）のみとなります。
サブウーハーの効果が小さいと感じられるときは、システムセットアップにおいて「Subwoofer Modeの設定」（23ページ参照）を『＋MAIN』、または「Speaker Configurationの設定」（22ページ参照）でフロントスピーカーの設定を『SMALL』に設定することをおすすめいたします。この設定をおこなうことによって、フロントチャンネルの低音域がサブウーハーから再生されるようになります。

16 主な仕様

■オーディオ部

●パワーアンプ部

項目	仕様
定格出力	フロント：70W＋70W（負荷8Ω、20Hz～20kHz）T.H.D 0.08% 110W＋110W（負荷6Ω、EIAJ）
	センター：70W（負荷8Ω、20Hz～20kHz）T.H.D 0.08% 110W（負荷6Ω、EIAJ）
	サラウンド：70W＋70W（負荷8Ω、20Hz～20kHz）T.H.D 0.08% 110W＋110W（負荷6Ω、EIAJ）
出力端子	フロント：A、B 6～16Ω A＋B 12～16Ω
	センター/サラウンド：6～16Ω

●アナログ部

項目	仕様
入力感度	200mV/47kΩ
周波数特性	10Hz～100kHz：＋1、－3dB（トーンデフィートON時）
S/N比	98dB（トーンデフィートON時）

■ビデオ部

●標準映像端子

項目	仕様
入出力レベル/インピーダンス	1Vp-p/75Ω
周波数特性	5Hz～10MHz：＋1、－3dB

●S映像端子

項目	仕様
入出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号：1Vp-p/75Ω C（色）信号：0.286Vp-p/75Ω
周波数特性	Y（輝度）信号：5Hz～10MHz：＋1、－3dB C（色）信号：10Hz～10MHz：＋1、－3dB

■総合

項目	仕様
電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	電源入り（ON）時：195W（電気用品安全法による） 待機（スタンバイ）時：1W以下
最大外形寸法	434（幅）×147（高さ）×417（奥行き）mm （フット・つまみ・端子を含む）
質量	10.4kg

■リモコン（RC-920）

項目	仕様
乾電池	R6P（単3形）乾電池2本使用
外形寸法	55（幅）×225（高さ）×345（奥行き）mm
質量	165g（乾電池を含む）

※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※ 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※ 本機は国内仕様です。
必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノン

本　社　〒113-0034　東京都文京区湯島3-16-11
TEL：（03）3837-5321（代表）

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電　話（　　-　　-　　）
ご購入年月日： 　　年　　月　　日	

Printed in Korea　511 3943 004